

# 第27回川崎病全国調査 報告書

2023年9月

川崎病全国調査実施グループ  
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター

## 第27回 川崎病全国調査 成績

### 1. はじめに

1970年以来、2年に1回の間隔で川崎病全国調査が実施されてきた（文献1-47参照）。今回、2023年に実施した第27回川崎病全国調査の成績を報告する。第27回調査は、2021年と2022年の2年間に全国で川崎病と診断された患者を対象とした。調査した項目は次の通りである。

#### 1) 従来 of 調査に準じる項目

患者氏名（イニシアルのみ）、発病時患者居住市区町村、性別、出生年月日、初診年月日、診断の確実度、不全型での主要症状の数、再発の有無、家族歴、死亡の有無、心障害の有無（初診時、急性期、後遺症別）、初診時病日、初回免疫グロブリン（IVI G）治療（不応例、ステロイド併用の有無とその内容、投与量、投与方法）、IVIG投与後の不応例に対する追加治療の内容（追加IVIG、ステロイド、インフリキシマブ、シクロスポリン、ウリナスタチン、血漿交換）、転院の有無

#### 2) 第27回調査で新たに加えられた項目

1st line、2nd line、3rd lineに分けた急性期治療の詳細、1st lineでの不応例か否か、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する検査の実施状況の詳細、COVID-19と小児多系統炎症性症候群（MIS-C）の可能性。

2019年末からのCOVID-19の世界的大流行を受けて、COVID-19に関する検査とその結果、および陽性の場合のMIS-Cとの関連を調査項目として加えた。

これまでに得られた過去の調査成績と比較しながら結果の概要を報告する。

### 2. 方法

従来の川崎病全国調査と同様に、小児科を標榜する100床以上の病院、および小児科のみを標榜する100床未満の小児専門病院を調査対象とした。2021年1月1日から2022年12月31日の2年間に於いて川崎病と診断された初診患者の情報を収集した。第26回調査の対象機関の情報を更新し、総計1,723の医療機関に調査協力を依頼した。

調査は原則として調査票の郵送により実施した（添付の調査票様式参照）。川崎病のインターネットサーベイランス（2023年3月で終了）に参加している一部の施設には電子メールでも協力を依頼した。

本調査は、自治医科大学臨床研究審査委員会（医学系倫理審査委員会）の承認を得て実施した（2022年12月2日、承認番号：臨大22-105号、課題名：第27回川崎病全国調査）。

### 3. 要旨

#### 3.1. 患者数・罹患率の年次推移

今回の調査で報告された患者数は、2021年が11,597人（男6,644人、女4,953人）、2022年が10,333人（男6,005人、女4,328人）であった。過去26回分の全国調査で報告された患者を合わせて、2022年12月31日までに本邦で川崎病と診断された患者は累計445,688人（男256,992人、女188,696人）となった。2021年の患者数は2020年と比較してやや増加したが、2022年の患者数は2021年から1,264人減少し、COVID-19蔓延前の2019年のレベルには戻らなかった。年齢別にみると、患者数は1歳が最も多く、0歳、2歳がこれに次いだ。

2021年の罹患率（0-4歳人口10万対）は2020年を上回り、269.3（男301.6、女235.4）であった。2022年は再度低下し、239.9（男272.6、女205.7）に低下した。罹患率のピークは

月齢9-11か月（1歳未満）であった。

### 3.2. 月別患者数の推移

2020年に観察されたコロナウイルス感染症の影響による従来からの川崎病の季節変動の変化は、2021年、2022年も継続した。1月よりも8月の方が患者数が多く、この傾向は特に2022年で顕著であった。

### 3.3. 地域分布

回収率で補正した年次別、都道府県別の罹患率では、特に特定の地方で高罹患率、あるいは低罹患率の都道府県が集中する傾向は観察されなかった。

### 3.4. 診断の確実度

定型例が17,592人（80.2%）、不定型例が243人（1.1%）、不全型が4,092人（18.7%）であり、前回調査とほぼ同様の結果であった。

### 3.5. 死亡例

1例（2022年、外傷性急性硬膜外血腫）の報告があった。

### 3.6. 心障害

初診時、急性期（発病後1か月以内）、後遺症（発病後1か月）の3時点に分けて心障害の出現頻度（割合）を検討した。初診時に心障害ありと診断された患者は1,017人（4.6%）で、男が649人（5.1%）、女が368人（4.0%）であった。冠動脈の小瘤が718人（3.3%）、中等瘤が96人（0.4%）、巨大瘤が12人（0.1%）、狭窄が2人（0.0%）、心筋梗塞が1人（0.0%）、弁膜病変が215人（1.0%）であった。

急性期に心障害ありと診断された患者は1,770人（8.1%）で、男が1,142人（9.0%）、女が628人（6.8%）であった。冠動脈の小瘤が1,187人（5.4%）、中等瘤が211人（1.0%）、巨大瘤が34人（0.2%）、狭窄が6人（0.0%）、心筋梗塞が2人（0.0%）、弁膜病変が383人（1.7%）であった。

後遺症を有した患者は510人（2.3%）で、男が351人（2.8%）、女が159人（1.7%）であった。冠動脈の小瘤が305人（1.4%）、中等瘤が87人（0.4%）、巨大瘤が28人（0.1%）、狭窄が6人（0.0%）、心筋梗塞が1人（0.0%）、弁膜病変が94人（0.4%）であった。

第26回調査より冠動脈病変の評価方法を改訂したが、初診時、急性期、後遺症のすべての時点において、心障害の出現頻度は以前の調査とほぼ同等であった。

### 3.7. 初診時病日と初期治療開始時病日

初診時病日は第4病日が5,543人（25.3%）で最も多く、13,618人（62.1%）が第4病日までに患者を報告した病院を受診していた。初回IVIG治療開始時病日は第5病日が6,129人（29.1%）で最も多かった。

### 3.8. 初回免疫グロブリン（IVIG）治療

初回IVIG治療を受けた患者は21,050人（96.0%）であり、そのうち5,126人（24.4%）が不応例であった。初回IVIG総投与量は2000mg/kgがほとんどであった。

初回IVIG治療時にステロイドが併用された患者は2,938人（14.0%）であった。ステロイドパルス療法が490人（2.3%）、ステロイドパルス療法以外が2,448人（11.6%）であった。

### 3.9. 初回免疫グロブリン投与後の追加治療法

初回IVIG不応例に対する追加療法は、2nd line、3rd line共にIVIG再投与の割合が最も

高く、ステロイド、シクロスポリン、インフリキシマブがこれに続いていた。

### 3.10. 転院

転院ありの患者は1,069人（4.9%）であった。

### 3.11. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）・小児多系統炎症性症候群（MIS-C）との関連

21,889人の川崎病患者のうち19,531人（89.2%）にCOVID-19に関する検査が実施されていた。PCR検査が最も多く、抗原検査、抗体検査がこれに続いていた。検査実施者のうち393人（2.0%）が陽性であった。また、複数の検査を実施し、検査によって陽性／陰性が分かれた者が10人（0.1%）いた。合計403人（2.1%）が川崎病罹患以前に何らかの形でCOVID-19に感染していた（転院や再受診による重複報告例は除く）。

## 4. 調査結果

### 4.1. 回収率

依頼状・調査票を送付した1,735の医療機関のうち、廃院や統廃合により調査協力が困難と回答した12機関を除く1,723機関を調査対象とした。このうち1,286の医療機関から調査協力が得られた（回収率74.6%）。

回答があった1,286の医療機関のうち、821機関（63.8%）が、2021年から2022年にかけて少なくとも1人以上の川崎病患者を診療したと回答した（転院や再受診による重複報告例は除く）。都道府県による回答率には41.7%（岩手県）から93.3%（鳥取県）と幅があり、前回の調査と同様であった。

### 4.2. 患者数・罹患率の年次推移（表1・図1・図2）

今回の調査では、総計21,930人（男12,649人、女9,281人）の患者が報告された。第26回全国調査までに報告された患者数を合わせて、2022年12月31日までに本邦で川崎病と診断され、全国調査に報告された患者は累計445,688人（男256,992人、女188,696人）となった。これまでの調査と今回の調査から得られた性別患者数、罹患率の年次推移を表1に示す。今回の調査で報告された患者数は、2021年が11,597人（男6,644人、女4,953人）、2022年が10,333人（男6,005人、女4,328人）であった。2020年に新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により減少した患者数は、2021年には若干増加したが、2022年には2020年を下回る数であった。

罹患率（0-4歳人口10万対）は、2021年が269.3（男301.6、女235.4）と、前年（2020年）を若干上回ったが、2022年は患者数の減少を反映して、罹患率は239.9（男272.6、女205.7）に低下した。2021年と2022年における罹患率の性比（男/女）はそれぞれ1.28、1.33であり、従来通り、男の罹患率が多いという結果であった。罹患率の算出には人口動態統計で用いられている人口を用いた（表1の脚注に詳細を記す）。

患者数の年次推移を図1に示す。1979年、1982年、1986年の3回にわたる全国規模の流行の後、1995年頃より年々患者数の増加が続き、2018-2019年にピークを迎えた。2010年以降の年次別患者数は12,000人を超え、1986年の3回目の流行時に匹敵する患者数となった。2012年には1979年の1回目の流行の約2倍となった。さらに2013年以降は15,000人を超え、1982年の2回目の流行時の患者数を超えた。20年近く増加し続けていた患者数は2018-2019年に1万7千人を超えてピークを迎えたが、2020年に大きく減少し、2021年、2022年も1万2千人を下回った。

罹患率の年次推移を図2に示す。近年の罹患率は増加傾向を示し、前述のように2019年に370.8（男410.1、女329.4）と、史上最高値を観測した。ところが2020年の罹患率は大きく低下し、2021年、2022年も低値で推移した。

## 【付記】重複報告された患者の除外基準

報告患者のうち、氏名イニシアル、性、出生年月日、住所市区町村を照合して、重複報告例（2か所以上の医療機関から報告された例）を特定した（1,678人を確認）。さらに、再発例（両者の初診日が1か月以上あいている場合）か、あるいは別人（住所府県が異なる等）かの確認を行い、最終的に1,205人の重複報告例を特定した（再発例が415人、別人が58人）。重複報告例のうち、初診年月日が早かった604人を今回の報告患者として取り扱った。重複報告例：601人の調査票（同一人物の患者情報）を1例ずつ慎重に再確認し、重症度の高い所見・情報をデータベース上で統一した。

### 4.3. 月別患者数の推移（図3・図4）

性別、月別患者数の推移を図3に示す。すべての月で男の患者が多かった。従来から（2019年まで）冬場（1月）に多発し、夏場にもやや患者が増加するという傾向はCOVID-19が蔓延した2020年から崩れ、特に2021年、2022年には1月の患者数よりも8月の患者数の方が多く、この傾向は2021年で顕著であった。

2011-2022年の月別患者数（平均）と2020-2022年の月別患者数（平均）との比較を図4に示す。1月に患者数が多い傾向は同じだが、2020-2022年の患者数（平均）では特に8月の患者数の増加が顕著であった。

### 4.4. 性・年齢分布（表2・図5）

年齢別、性別患者数、罹患率を表2に示す。男が全体の57.7%（12,649人）を占め、0-4歳（4歳以下）が全体の89.0%（19,511人）を占めた。2019年と2020年の年齢別の患者数を図5に示す。両年ともに1歳の患者数をもっとも多く、2歳、0歳がこれに次いだ。

月・年齢別罹患率（人口10万対）を観察すると（表2）、月齢9-11か月が最も高く、2021年は445.2、2022年は364.0であった。2021年と2022年の性別・年齢別罹患率を図5に示す。罹患率のピークが月齢9-11か月にあるのは従来と同様だが、2021年は男女とも15-17月の罹患率のピークも観察された。

### 4.5. 地域分布（表3・図6）

都道府県別、年次別、性別患者数及び罹患率（0-4歳人口10万対）を表3に示す。患者数が最も多かったのは、東京の2,384人で、次いで大阪1,612人、神奈川1,478人、愛知1,453人、埼玉1,407人であった。一方、患者数が最も少なかったのは山梨の66人で、続いて高知の93人で、岩手100人、島根114人、香川118人、がこれに次いだ。2019年と2020年とを比較すると、患者数の順位に差異はほとんどみられなかった。

回収率で補正した年次別、都道府県別の罹患率は、2021年では岡山484.4、山口443.3、山形436.4の順に高く、2022年では埼玉422.1、京都399.1、岡山386.7の順に高かった。一方で、罹患率の低い都道府県は、2021年では沖縄217.2、山梨221.4、宮崎231.5の順に低く、2022年では三重170.4、山梨173.5、富山191.7の順に低かった。

2019年から2022年の都道府県別罹患率（階級区分別）を図6に示す。罹患率の高い都道府県が集中する傾向は見られなかった。

### 4.6. 診断の確実度（表4・表5・図7）

川崎病診断の手引き改訂第6版（2019年5月）に基づく診断の確実度は次の通りである。

- (1) 定型例 6つの主要症状のうち5症状以上を呈する例（確実A）
- (2) 不定型例 6つの主要症状のうち4症状しか呈さないが、他の疾患が否定され、経過中に断層心エコー法で冠動脈病変が認められる例（確実B）
- (3) 不全型 6つの主要症状のうち4症状以下の症状を呈し、他の疾患が否定され、参考条項から川崎病がもっとも考えられる例（不全型）

定型例が17,592人(80.2%)、不定型例243人(1.1%)、不全型が4,092人(18.7%)であり、前回調査とほぼ同様の結果であった(表4)。不全型の主要症状の数は4個が(71.4%)で最も多く、次いで3個(23.1%)、2個(5.0%)であった。主要症状の数の分布に性差はなく、これも前回調査と同様の結果であった(表5)。

不定型例と不全型の年次推移を図7に示す。1990年以降、不全型の割合が増加傾向にあったが2019年以降は減少した。一方、不定型例では1991年以降、緩やかな減少傾向がみられる。

#### 4.7. 再発例 (表6)

再発例は786人(3.6%)で、男が449人(3.5%)、女は337人(3.6%)であり、前回の調査成績よりもやや少なかった。

#### 4.8. 家族歴(同胞例・両親の川崎病の既往) (表7・表8)

兄弟姉妹に川崎病の既往がある患者(同胞例)は428人(2.0%)で、男が241人(1.9%)、女は187人(2.0%)であった(表7)。

父親あるいは母親いずれかに川崎病の既往歴があった患者は309人(1.4%)であった。性別、月・年齢別、診断別にみても明らかな差は認められなかった。両親のいずれかに川崎病の既往があった患者のうち、父親にのみ既往があった患者が167人(54.0%)、母親にのみ既往があった患者が138人(44.7%)、父母ともに既往があった患者は4人(1.3%)であった(表8)。

#### 4.9. 死亡例

2021年から2022年にかけての死亡例は2022年に1例(男、死亡時1歳2か月)であった。診断の確実度は定型例で1歳0か月で川崎病に罹患し、2か月後に外傷性急性硬膜外血腫で死亡した。

#### 4.10. 心障害 (表9・図8・図9)

第25回までの全国調査は、冠動脈病変を「拡大・瘤・巨大瘤」の3つのカテゴリーに分類し、それぞれについて「あり/なし」の二値(名義尺度)で病変の有無を評価していた。第26回調査からはこの様式を改訂した。冠動脈病変の評価には、実臨床において(1)冠動脈内径の実測値(mm)あるいは(2)Zスコアのいずれかが用いられているため、第26回および今回の調査では、実測値あるいはZスコアのいずれかの数値に基づき病変の有無を評価した。心エコー検査が複数回施行された場合は、実測値、Zスコアともに測定された最大径(最大スコア)を評価した。冠動脈病変を次の基準で分類した。

	Zスコア	実測値(冠動脈内径)
分類	年齢は関係なし	5歳未満を下記の基準で分類する (ただし巨大瘤は5歳以上でも基準を満たす)
1. 小瘤	+2.5 ~ +4.9	3.0 mm ~ 3.9 mm
2. 中等瘤	+5.0 ~ +9.9	4.0 mm ~ 7.9 mm
3. 巨大瘤	+10.0以上	8 mm 以上

初診時、急性期(発病後1か月以内)、後遺症(発病後1か月)の3時点に分けて心障害の出現頻度(割合)を表9に示した。

初診時に心障害ありと診断された患者は1,017人(4.6%)で、男が649人(5.1%)、女が368人(4.0%)であった。心障害の診断分類別に観察すると、冠動脈の小瘤が718人(3.3%)、中等瘤が96人(0.4%)、巨大瘤が12人(0.1%)、狭窄が2人(0.0%)、心筋梗塞が1人(0.0%)、弁膜病変が215人(1.0%)であった。性別に観察すると、巨大瘤と狭窄以外の病変は男での

出現頻度が高かった。年齢別に観察すると、狭窄と弁膜病変以外で2歳未満で高かった。不定型例ではすべての心障害の出現頻度が高かった。

急性期に心障害ありと診断された患者は1,770人(8.1%)で、男が1,142人(9.0%)、女が628人(6.8%)であった。診断分類別に観察すると、冠動脈の小瘤が1,187人(5.4%)、中等瘤が211人(1.0%)、巨大瘤が34人(0.2%)、狭窄が6人(0.0%)、心筋梗塞が2人(0.0%)、弁膜病変が383人(1.7%)であった。性別に観察すると、巨大瘤、狭窄、心筋梗塞以外の病変で男での出現頻度が高かった。年齢別に観察すると、弁膜病変以外の病変の出現頻度は2歳未満で高かった。不定型例ではすべての心障害の出現頻度が高かった。

後遺症のある患者は510人(2.3%)で、男が351人(2.8%)、女が159人(1.7%)であった。心障害の診断分類別に観察すると、冠動脈の小瘤が305人(1.4%)、中等瘤が87人(0.4%)、巨大瘤が28人(0.1%)、狭窄が6人(0.0%)、心筋梗塞が1人(0.0%)、弁膜病変が94人(0.4%)であった。性別に観察すると、すべての病変で男での出現頻度が高かった。年齢別に観察すると、弁膜病変の出現頻度は2歳以上で高かった。不定型例ではすべての心障害の出現頻度が高かった。

川崎病による心障害の出現頻度は、初診時から急性期にかけて約2倍に増加し、後遺症では初診時の約半分まで減少した。巨大瘤は急性期から後遺症期に掛けての減少の程度が小さかった。

性別、年齢別の心障害の出現頻度を図8に示す。心障害の出現頻度はこれまでと同様に若年児と年長児で高い傾向がみられた。

第26回全国調査より冠動脈病変の評価方法を改訂したが、初診時、急性期、後遺症のすべての時点において、心障害の出現頻度は従来の調査とほぼ同等であった(図9)。急性期における心障害の出現頻度は、第15回調査(1997-1998年)では20.1%であったがその後著明に減少し、第27回調査では8.1%まで低下した。後遺症の出現頻度も同様に、7.0%から2.3%まで低下した。

#### 4.11. 初診時病日及び初回免疫グロブリン治療開始時病日 (表10)

患者の初診時病日は第4病日が5,543人(25.3%)で最も多く、13,618人(62.1%)が発症から第4病日までに患者を報告した病院を受診していた(表10)。初診日の中央値は第4病日であり、第15回調査(1997-1998年)以降、変化していない。2歳未満と2歳以上に分類すると、2歳未満では66.6%が第4病日までに受診していたが、2歳以上では57.8%にとどまっており、年長児で受診がやや遅れる傾向がみられた。初診時病日は、2021年と2022年との間で分布に差はみられなかった。

初回IVIG治療開始時病日は第5病日が6,129人(29.1%)で最も多かった。2歳未満では75.7%が第5病日までに初回IVIG治療を開始されていたが、2歳以上では66.8%であり、2歳未満でより早期にIVIG治療が開始される傾向がみられた。2021年と2022年との間で初回IVIG治療開始時病日の分布に差はみられなかった。

#### 4.12. 初回免疫グロブリン治療とステロイド併用 (表11～表13・図10～12)

初回IVIG治療を受けた患者は21,050人(96.0%)であり、男が12,138人(96.0%)、女が8,912人(96.0%)であった(表11)。免疫グロブリン総投与量は図10に示すように、体重1キログラムあたり2gがほとんどであった。

初回IVIG治療を受けた患者のうち、5,126人(24.4%)が不応例であり、前回調査の20.4%を上回った(表12)。性別の観察では男(25.3%)に不応例が多く、月・年齢別の観察では年長児に不応例が多かった。第21回調査(2009-2010年)以降の初回IVIG治療不応例の患者数とその割合を図11に示す。近年は初回IVIG治療不応例の割合は増加傾向にある。

初回IVIG治療時にステロイドが併用された患者は2,938人(14.0%)であった(表13)。ステロイドが併用された患者は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。診断別では、定型例2,486人(14.4%)、不定型例21人(9.0%)、不全型431人(12.1%)に初回IVIG+ステロイド併用療法が施行された。

ステロイド併用の内容は、ステロイドパルス療法が490人(2.3%)、ステロイドパルス療法以外が2,448人(11.6%)であった。年齢別では10歳以上(22.3%)、診断別では定型例(1

2.0%)においてステロイドパルス療法以外が選択される傾向がみられた。

第22回調査(2011-2012年)以降の初回IVIG+ステロイド併用療法の年次推移を図12に示す。ステロイド併用療法は、2011年には初回IVIG使用例全体の3.2%にとどまっていたがその後増加し、2016年以降は全体の13%程度で横ばい傾向となっていた。2021年には若干減少したが、2022年には従来以上となった。ステロイド併用療法のおよそ85%はステロイドパルス療法以外が選択されており、ステロイドパルス療法は2011年以降も割合はほとんど増加していない。

#### 4.13. 初回免疫グロブリン投与後の追加治療法 (表14・表15)

初回IVIG投与を受けた21,048人(21,050人のうち診断不明の2人を除く)のうち、2nd lineで追加IVIG投与(再燃時のIVIG投与を含む)を受けた患者は4,853人(23.1%)であった(表14)。性別では男に多く、2歳以上で多かった。診断別では不定型例が多かった。

2nd line追加治療としてのステロイドは1,065人(5.0%)に投与された。男、2歳以上で多かった。診断別では定型例が多かった。

シクロスポリンは294人(1.4%)に投与された。性差はなく、2歳以上でやや多かった。診断別では不定型例が多かった。

インフリキシマブは105人(0.5%)に投与された。ステロイドと同様に、男、2歳以上、不定型例で多かった。

ウリナスタチンは185人(0.9%)に投与され、性差はなく、2歳以上、診断別では不定型例が多かった。

血漿交換は5人(0.0%)に施行された。

3rd lineの追加治療の状況を表15に示す。3rd lineの状況が判明している21,927人のうち、IVIG追加投与は578人(2.6%)で性別では男で多く、2歳未満で多かった。診断別では不定型例が多かった。パルス以外のステロイドが197人(0.9%)で性・年齢別解析では特に差がなく、診断別では不定型例がやや多かった。ステロイド・パルスが156人(0.7%)で性別では男で多く、2歳未満、定型例で多かった。シクロスポリンが384人(1.8%)で、男、2歳未満で多かった。インフリキシマブが513人(2.3%)で、男、2歳未満、不定型例で多かった。ウリナスタチンが68人(0.3%)で性差はなく、2歳未満、不定型例で多かった。血漿交換が77人(0.4%)で、男、2歳以上、不定型例で多かった。

#### 4.14. 転院

転院ありの患者は1,069人(4.9%)であった。性別の観察では、男が633人(5.0%)で、女が436人(4.7%)であった。月・年齢別の観察では、0-5か月と10歳以上で転院の割合が高い傾向がみられた。心障害の有無別の観察では、初診時、急性期、後遺症のいずれの時期でも心障害ありの患者で転院の割合が高かった。診断別の観察では不定型例で転院の割合が高かった。

#### 4.15. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)・小児多系統炎症性症候群(MIS-C)との関連(表16-21)

わが国では2020年から蔓延したCOVID-19により、各種感染症がその影響を受けて例年とは異なる流行状況を呈した。川崎病も2020年に前年の約3分の2に患者数が減少し、その後も同様の傾向が続いている。第27回全国調査では各報告患者について、COVID-19感染状況の確認と、MIS-Cとの関連を照査した。なお、本報告書では「川崎病ではなくMIS-C」として報告された例も川崎病全国調査に診断の手引きに示される川崎病に相当するために報告されたと判断し、すべて集計に加えている。

表16にCOVID-19に関する検査の実施状況を示す。21,889人の川崎病患者のうち19,531人(89.2%)に検査が実施されていた。COVID-19蔓延に伴い、入院患者には入院時に検査を実施し、陽性の場合には感染対策を取った上での入院とするため、約9割の患者に検査が実施されたのであろう。年長の患者で検査実施率が高かった。また、「みなし陽性」が若干存在した。

1人の川崎病患者に対して複数のCOVID-19に関する検査が実施されている場合があるた

め、表17-19にPCR検査、抗原検査、抗体検査、その他の順番を付け、それぞれの検査実施状況を示した。例えば表19の抗体検査実施者はPCR検査、抗原検査に加えて抗体検査を実施した者である。PCR検査が最も多く、表17に示すようにCOVID-19に関する検査実施者の約6割がPCR検査であった。以下、抗原検査が40.6%、抗体検査が0.9%であった。

検査実施者19,531人のうち、393人(2.0%)が陽性であった。また、複数の検査を実施し、検査によって陽性/陰性が分かれた者が10人(0.1%)いた。合計403人(2.1%)が川崎病罹患以前に何らかの形でCOVID-19に感染していた。(表20)

MIS-Cとの関連は表21に示すとおりで、COVID-19関係について情報がある12,538人のうち、検査陰性も含めて12,136人がMIS-C否定(川崎病)、249人(2.0%)が川崎病だがMIS-Cの可能性もある、64人(0.5%)がMIS-Cだが川崎病の可能性もある、89人(0.7%)が川崎病の診断基準を満たすMIS-Cと報告された。なお、これらの判断は主治医によるもので、MIS-Cに関するどの診断基準を使用したのかや、判断の根拠については調査していない。

## 5. 謝辞

第1回全国調査以来、終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

また調査に協力いただいた自治医科大学公衆衛生学教室の関係各位にも感謝申し上げます。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページで公開しています。

URL: <http://www.jichi.ac.jp/dph/inprogress/kawasaki/>

なお、川崎病全国調査はその使命が終了したと判断し、第27回調査をもって終了いたします。1970年の第1回調査よりご協力頂いた方々に心から御礼申し上げます。また、本調査の創始者である故川崎富作先生、故重松逸造先生に改めて敬意を表します。

(文責：中村好一)

## 6. 文献

1. 小児MCLS研究班(班長:神前章雄). 小児MCLS全国調査成績,昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要.1971.
2. 重松逸造,他.いわゆる川崎病について.日本公衛誌 1975;22:306-12.
3. 柳川洋.川崎病の実態.公衆衛生情報 1975;5(12):22-9.
4. 柳川洋.川崎病の疫学.日本臨床 1976;34:275-83.
5. 川崎病研究班.最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態:第5回全国調査結果の速報.小児科1979;20:755-7.
6. 川崎病研究班.MCLS(川崎病の多発):第6回全国調査成績の速報.小児科 1981;22:53-8.
7. 川崎病研究班.最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態-第7回全国調査成績の速報-.小児科 1983;24:53-8.
8. 厚生省川崎病研究班.第8回川崎病全国調査成績.小児科 1985;26:1049-53.
9. 柳川洋.川崎病の全国調査成績.川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編).東京:ソフトサイエンス社,1986; 37-51.
10. 厚生省川崎病研究班.第9回川崎病全国調査成績.小児科 1987;28:1059-66.
11. 柳川洋,屋代真弓,藤田委由.川崎病の全国調査成績.川崎病(川崎富作,重松逸造,濱島義博,柳川洋,加藤裕久編).東京:南江堂,1988; 18-31.
12. 厚生省川崎病研究班.第10回川崎病全国調査成績.小児科 1990;31:569-76.
13. 厚生省川崎病研究班.第11回川崎病全国調査成績.小児科 1992;33:309-16.
14. 厚生省川崎病研究班.第12回川崎病全国調査成績.小児科 1994;35:61-73.
15. 厚生省川崎病研究班.第13回川崎病全国調査成績.小児科 1996;37:363-3.
16. 厚生省川崎病研究班.第14回川崎病全国調査成績.小児科診療 1998;61:406-20.
17. 厚生省川崎病研究班.第15回川崎病全国調査成績.小児科診療 2000;63:121-32.
18. 厚生省川崎病研究班.第16回川崎病全国調査成績.小児科診療 2002;65:332-42.
19. 柳川洋,中村好一,屋代真弓,川崎富作(編).川崎病の疫学-30年間の総括-.東京:診断と治療社,2002.
20. 厚生労働省川崎病研究班.第17回川崎病全国調査成績.小児科診療 2004;67:313-23.
21. 厚生労働省川崎病研究班.第18回川崎病全国調査成績.小児科診療 2006;69:281-92.
22. 屋代真弓,中村好一,柳川洋.川崎病疫学像の最近の推移1989-2004.日本小児科学会雑誌.2007;111:740-5.
23. 厚生労働省川崎病研究班.第19回川崎病全国調査成績.小児科診療 2008;71:349-60.
24. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第20回川崎病全国調査成績.小児科診療 2010;73:143-56.
25. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第21回川崎病全国調査成績.小児科診療 2012;75):507-23.
26. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第22回川崎病全国調査成績.小児科診療 2014;77:271-90.
27. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第23回川崎病全国調査成績.小児科診療 2016;79:273-92.
28. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第24回川崎病全国調査成績.小児科診療 2018;81:271-4.
29. 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター).第25回川崎病全国調査成績.小児科診療 2020;83:269-73.
30. 阿江竜介,他.第26回川崎病全国調査成績.小児科診療 2021;85:391-6.
31. Kawasaki T, et al. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974;54:271-6.
32. Yanagawa H, et al. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.

33. Yanagawa H, et al. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. *J Infect Dis* 1988;158:1296-301. doi:10.1093/infdis/158.6.1296.
34. Yanagawa H, et al. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. *Pediatrics* 1995;95:475-9.
35. Yanagawa H, et al. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. *Arch Pediatr Adolesc Med* 1995;149:779-83. doi: 10.1001/archpedi.1995.02170200069011.
36. Yanagawa H, et al. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. *J Epidemiol* 1996;6:148-57. doi :10.2188/jea.6.148.
37. Yanagawa H, et al. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. *Pediatrics* 1998; 102:e65. doi: 10.1542/peds.102.6.e65.
38. Yanagawa H, et al. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. *Pediatrics* 2001;107:e33. doi:10.1542/peds.107.3.e33.
39. Nakamura Y, et al. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan: Results from Nationwide Survey in 2005-2006. *J Epidemiol* 2008;18:167-72. doi: 10.2188/jea.je2008001.
40. Nakamura Y, et al. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. *J Epidemiol* 2008;18:273-9. doi:10.2188/jea.je2008030.
41. Nakamura Y, et al. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. *J Epidemiol* 2010;20:302-7. doi: 10.2188/jea.je20090180.
42. Nakamura Y, et al. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2009-2010 nationwide survey. *J Epidemiol* 2012;22:216-21. doi: 10.2188/jea.je20110126.
43. Makino N, et al. Descriptive epidemiology of Kawasaki disease in Japan, 2011-2012: from the results of the 22nd nationwide survey. *J Epidemiol* 2015;25:239-45. doi:10.2188/jea.JE20140089.
44. Makino N, et al. Epidemiological observation of Kawasaki disease in Japan, 2013-2014. *Pediatr Int* 2018;60:581-7. doi:10.1111/ped.13544.
45. Makino N, et al. Nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in Japan, 2015-2016. *Pediatr Int* 2019;61:397-403. doi:10.1111/ped.13809.
46. Ae R, et al. Epidemiology, treatments, and cardiac complications in patients with Kawasaki disease: The nationwide survey in Japan, 2017-2018. *J Pediatr* 2020;225:23-9. e2. doi:10.1016/j.jpeds.2020.05.034.
47. Ae R, et al. Incidence of Kawasaki disease before and after the COVID-19 pandemic in Japan: Results of the 26th nationwide survey, 2019 to 2020. *JAMA Pediatr* 2022;176:1217-24. doi : 10.1001/jamapediatrics.2022.3756.

文献36と39-43はJournal of Epidemiologyのウェブサイト(<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>)で、文献37と38はPediatricsのウェブサイト(<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>)で読むことができます。

[表1] 性別の患者数、罹患率、死亡数、致命率の年次推移

暦年	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0( - )
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0( - )
2010	12,755	7,266	5,489	242.8	270.2	214.0	1(0.01)
2011	12,774	7,406	5,368	243.1	275.2	209.4	1(0.01)
2012	13,917	8,036	5,881	266.4	300.4	230.7	3(0.02)
2013	15,696	9,044	6,652	302.5	340.1	262.9	1(0.01)
2014	15,979	9,097	6,882	309.9	344.1	273.9	7(0.04)
2015	16,323	9,385	6,938	330.2	371.2	287.3	1(0.01)
2016	15,272	8,675	6,597	312.0	346.4	276.0	1(0.01)
2017	15,164	8,635	6,529	313.6	348.8	276.6	1(0.01)
2018	17,364	9,964	7,400	364.6	408.5	318.5	5(0.03)
2019	17,347	9,830	7,517	370.8	410.1	329.4	0( - )
2020	11,173	6,406	4,767	250.6	280.8	219.0	2(0.02)
2021	11,597	6,644	4,953	269.3	301.6	235.4	0( - )
2022	10,333	6,005	4,328	239.9	272.6	205.7	1(0.01)
総計	445,688	256,992	188,696	—	—	—	459(0.10)

\*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2022年は2021年の推計人口)を用いた。前回調査の2020年は2019年の人口を用いたので今回2020年の人口で修正した。

[表2] 年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2021年				2022年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	21,930	254.6	12,649	9,281	11,597	269.3	6,644	4,953	10,333	239.9	6,005	4,328
0-2か月	377	92.9	219	158	193	95.1	105	88	184	90.6	114	70
3-5か月	1,159	285.5	689	470	609	300.0	347	262	550	270.9	342	208
6-8か月	1,438	354.2	879	559	724	356.7	447	277	714	351.7	432	282
9-11か月	1,644	404.9	973	671	905	445.8	538	367	739	364.0	435	304
12-14か月	1,634	366.4	971	663	854	383.0	498	356	780	349.8	473	307
15-17か月	1,656	371.3	980	676	924	414.3	546	378	732	328.3	434	298
18-20か月	1,487	333.4	871	616	832	373.1	480	352	655	293.7	391	264
21-23か月	1,423	319.1	841	582	794	356.1	463	331	629	282.1	378	251
2歳-2歳5か月	2,432	284.8	1,375	1,057	1,362	319.0	755	607	1,070	250.6	620	450
2歳6か月-11か月	1,969	203.8	1,104	865	1,059	219.3	591	468	910	188.4	513	397
3歳-3歳5か月	1,428	158.8	810	618	758	168.6	440	318	670	149.1	370	300
3歳6か月-11か月	1,249	127.2	678	571	638	129.9	345	293	611	124.4	333	278
4歳	1,615	87.5	884	731	824	89.3	454	370	791	85.7	430	361
5歳	948	55.0	510	438	468	54.3	254	214	480	55.7	256	224
6歳	531	30.8	289	242	250	29.0	141	109	281	32.6	148	133
7歳	322	18.7	187	135	135	15.7	79	56	187	21.7	108	79
8歳	197	11.4	112	85	79	9.2	45	34	118	13.7	67	51
9歳	138	8.0	92	46	58	6.7	36	22	80	9.3	56	24
10歳以上	283	2.7	185	98	131	2.5	80	51	152	2.9	105	47

\*罹患率の計算には2021年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

\*\*総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3]患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2019年				2020年				2021年				2022年			
	患者数			罹患率*												
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	17,347	9,830	7,517	370.7	11,173	6,406	4,767	250.6	11,597	6,644	4,953	269.3	10,333	6,005	4,328	239.9
1:北海道	654	355	299	387.0	391	232	159	231.4	362	214	148	232.1	312	175	137	200.0
2:青森	124	61	63	310.0	76	39	37	190.0	105	57	48	291.7	53	29	24	147.2
3:岩手	93	50	43	232.5	40	24	16	100.0	58	36	22	161.1	42	22	20	116.7
4:宮城	256	149	107	308.4	136	71	65	163.9	140	80	60	184.2	131	76	55	172.4
5:秋田	82	48	34	303.7	54	35	19	200.0	66	37	29	275.0	55	37	18	229.2
6:山形	187	100	87	519.4	96	49	47	266.7	108	59	49	327.3	70	44	26	212.1
7:福島	236	131	105	357.6	135	76	59	204.5	130	64	66	220.3	134	79	55	227.1
8:茨城	415	258	157	410.9	218	139	79	215.8	233	127	106	250.5	213	131	82	229.0
9:栃木	283	157	126	404.3	167	109	58	238.6	202	110	92	320.6	183	101	82	290.5
10:群馬	281	151	130	425.8	178	100	78	269.7	196	114	82	321.3	153	86	67	250.8
11:埼玉	1,114	647	467	415.7	693	415	278	258.6	711	405	306	283.3	696	413	283	277.3
12:千葉	910	528	382	402.7	615	344	271	272.1	644	369	275	302.3	599	350	249	281.2
13:東京	2,010	1,174	836	382.1	1,262	739	523	239.9	1,274	745	529	260.5	1,110	656	454	227.0
14:神奈川	1,246	715	531	367.6	701	397	304	206.8	810	451	359	254.7	668	388	280	210.1
15:新潟	314	166	148	418.7	213	127	86	284.0	220	130	90	318.8	203	120	83	294.2
16:富山	107	72	35	305.7	76	44	32	217.1	75	53	22	227.3	46	29	17	139.4
17:石川	164	84	80	381.4	132	77	55	307.0	125	65	60	312.5	93	54	39	232.5
18:福井	104	58	46	358.6	60	29	31	206.9	90	48	42	333.3	59	30	29	218.5
19:山梨	106	54	52	378.6	53	33	20	189.3	37	20	17	137.0	29	18	11	107.4
20:長野	268	141	127	362.2	162	87	75	218.9	177	119	58	260.3	137	70	67	201.5
21:岐阜	257	138	119	356.9	182	97	85	252.8	196	112	84	301.5	149	90	59	229.2
22:静岡	512	288	224	393.8	300	160	140	230.8	274	164	110	230.3	210	118	92	176.5
23:愛知	1,132	615	517	371.1	691	397	294	226.6	738	401	337	258.9	715	422	293	250.9
24:三重	195	127	68	304.7	150	93	57	234.4	146	89	57	247.5	91	54	37	154.2
25:滋賀	257	142	115	435.6	180	112	68	305.1	161	101	60	292.7	139	85	54	252.7
26:京都	336	191	145	365.2	241	137	104	262.0	248	155	93	291.8	231	125	106	271.8
27:大阪	1,201	688	513	367.3	794	450	344	242.8	800	468	332	258.1	812	482	330	261.9
28:兵庫	728	413	315	350.0	483	281	202	232.2	477	272	205	247.2	498	289	209	258.0
29:奈良	214	112	102	455.3	132	63	69	280.9	117	65	52	272.1	112	67	45	260.5
30:和歌山	161	93	68	503.1	88	43	45	275.0	110	54	56	366.7	68	39	29	226.7
31:鳥取	92	43	49	438.1	58	31	27	276.2	65	37	28	325.0	65	40	25	325.0
32:島根	84	53	31	323.1	68	32	36	261.5	67	40	27	279.2	47	25	22	195.8
33:岡山	259	138	121	350.0	220	130	90	297.3	243	142	101	352.2	194	114	80	281.2
34:広島	416	249	167	381.7	316	182	134	289.9	311	164	147	307.9	284	163	121	281.2
35:山口	177	113	64	376.6	97	42	55	206.4	122	69	53	283.7	77	39	38	179.1
36:徳島	124	61	63	496.0	69	39	30	276.0	74	36	38	321.7	71	41	30	308.7
37:香川	95	55	40	263.9	71	41	30	197.2	69	37	32	209.1	49	27	22	148.5
38:愛媛	181	104	77	385.1	146	87	59	310.6	144	87	57	327.3	110	76	34	250.0
39:高知	96	61	35	417.4	47	25	22	204.3	51	27	24	231.8	42	23	19	190.9
40:福岡	672	359	313	314.0	491	292	199	229.4	557	337	220	275.7	589	342	247	291.6
41:佐賀	82	54	28	241.2	65	40	25	191.2	75	42	33	234.4	57	29	28	178.1
42:長崎	154	89	65	296.2	101	61	40	194.2	113	68	45	235.4	105	59	46	218.8
43:熊本	245	139	106	335.6	182	102	80	249.3	192	108	84	282.4	171	91	80	251.5
44:大分	166	103	63	395.2	127	67	60	302.4	108	53	55	276.9	85	54	31	217.9
45:宮崎	130	68	62	295.5	95	55	40	215.9	73	40	33	178.0	90	43	47	219.5
46:鹿児島	218	123	95	330.3	165	86	79	250.0	168	99	69	271.0	138	81	57	222.6
47:沖縄	204	109	95	255.0	156	95	61	195.0	135	74	61	177.6	147	78	69	193.4
48:国外	5	3	2	—	0	0	0	—	0	0	0	—	1	1	0	—
不明	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—

\*都道府県別罹患率は2019-2020年は2020年住民基本台帳人口、2021-2022年は2022年住民基本台帳人口を用いて計算した。

\*\*全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2020年は修正、2022年は2021年の推計人口を使用)。

[表4]性別、年齢別、診断の確実度

		総数(%)		定型例(%)		不定型例(%)		不全型(%)	
総数		21,930	(100)	17,592	(80.2)	243	(1.1)	4,092	(18.7)
性別	男	12,649	(100)	10,130	(80.1)	147	(1.2)	2,371	(18.7)
	女	9,281	(100)	7,462	(80.4)	96	(1.0)	1,721	(18.5)
年齢別	0-5か月	1,536	(100)	1,147	(74.7)	48	(3.1)	341	(22.2)
	6-11か月	3,082	(100)	2,361	(76.6)	53	(1.7)	668	(21.7)
	1歳	6,200	(100)	5,028	(81.1)	50	(0.8)	1,119	(18.0)
	2歳	4,401	(100)	3,776	(85.8)	24	(0.5)	601	(13.7)
	3歳	2,677	(100)	2,199	(82.1)	21	(0.8)	457	(17.1)
	4歳	1,615	(100)	1,292	(80.0)	15	(0.9)	308	(19.1)
	5歳	948	(100)	738	(77.8)	14	(1.5)	196	(20.7)
	6歳	531	(100)	401	(75.5)	3	(0.6)	127	(23.9)
	7歳	322	(100)	244	(75.8)	2	(0.6)	76	(23.6)
	8歳	197	(100)	139	(70.6)	4	(2.0)	54	(27.4)
	9歳	138	(100)	90	(65.2)	2	(1.4)	46	(33.3)
	10歳以上	283	(100)	177	(62.5)	7	(2.5)	99	(35.0)

「診断の確実度」不明 3人は表から除いたので合計は100%にならない。

[表5]性別、年齢別、不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)	主要症状の数(%)				
			1個	2個	3個	4個	不明
総数*		4,092 (100)	17 (0.4)	204 (5.0)	946 (23.1)	2,923 (71.4)	2 (0.0)
性別	男	2,371 (100)	7 (0.3)	115 (4.9)	550 (23.2)	1,698 (71.6)	1 (0.0)
	女	1,721 (100)	10 (0.6)	89 (5.2)	396 (23.0)	1,225 (71.2)	1 (0.1)
年齢別	0-5か月	341 (100)	3 (0.9)	29 (8.5)	84 (24.6)	225 (66.0)	0 -
	6-11か月	668 (100)	3 (0.4)	32 (4.8)	167 (25.0)	465 (69.6)	1 (0.1)
	1歳	1,119 (100)	2 (0.2)	39 (3.5)	247 (22.1)	830 (74.2)	1 (0.1)
	2歳	601 (100)	4 (0.7)	22 (3.7)	126 (21.0)	449 (74.7)	0 -
	3歳	457 (100)	1 (0.2)	29 (6.3)	93 (20.4)	334 (73.1)	0 -
	4歳	308 (100)	0 -	21 (6.8)	66 (21.4)	221 (71.8)	0 -
	5歳	196 (100)	0 -	9 (4.6)	58 (29.6)	129 (65.8)	0 -
	6歳	127 (100)	1 (0.8)	10 (7.9)	29 (22.8)	87 (68.5)	0 -
	7歳	76 (100)	0 -	3 (3.9)	20 (26.3)	53 (69.7)	0 -
	8歳	54 (100)	1 (1.9)	3 (5.6)	19 (35.2)	31 (57.4)	0 -
	9歳	46 (100)	0 -	2 (4.3)	11 (23.9)	33 (71.7)	0 -
	10歳以上	99 (100)	2 (2.0)	5 (5.1)	26 (26.3)	66 (66.7)	0 -

\*四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表6] 性別、年齢別、診断別再発例の割合

		総数(%)		再発あり(%)		再発なし(%)	
総数*		21,930	(100)	786	(3.6)	21,143	(96.4)
性別	男	12,649	(100)	449	(3.5)	12,199	(96.4)
	女	9,281	(100)	337	(3.6)	8,944	(96.4)
年齢別	0-5か月	1,536	(100)	6	(0.4)	1,530	(99.6)
	6-11か月	3,082	(100)	28	(0.9)	3,054	(99.1)
	1歳	6,200	(100)	117	(1.9)	6,083	(98.1)
	2歳	4,401	(100)	201	(4.6)	4,200	(95.4)
	3歳	2,677	(100)	137	(5.1)	2,540	(94.9)
	4歳	1,615	(100)	122	(7.6)	1,492	(92.4)
	5歳	948	(100)	72	(7.6)	876	(92.4)
	6歳	531	(100)	38	(7.2)	493	(92.8)
	7歳	322	(100)	18	(5.6)	304	(94.4)
	8歳	197	(100)	12	(6.1)	185	(93.9)
	9歳	138	(100)	14	(10.1)	124	(89.9)
10歳以上	283	(100)	21	(7.4)	262	(92.6)	
診断別**	定型例	17,592	(100)	610	(3.5)	16,981	(96.5)
	不定型例	243	(100)	14	(5.8)	229	(94.2)
	不全型	4,092	(100)	162	(4.0)	3,930	(96.0)

\*再発の有無が不明1人は表から除いたので合計は100%にならない。

\*\*診断の確実度が不明3人を分析から除外した。

[表7] 性別、年齢別、診断別同胞例の割合

		総数(%)		同胞例あり(%)		同胞例なし(%)	
総数		21,930	(100)	428	(2.0)	21,502	(98.0)
性別	男	12,649	(100)	241	(1.9)	12,408	(98.1)
	女	9,281	(100)	187	(2.0)	9,094	(98.0)
年齢別	0-5か月	1,536	(100)	26	(1.7)	1,510	(98.3)
	6-11か月	3,082	(100)	59	(1.9)	3,023	(98.1)
	1歳	6,200	(100)	126	(2.0)	6,074	(98.0)
	2歳	4,401	(100)	88	(2.0)	4,313	(98.0)
	3歳	2,677	(100)	51	(1.9)	2,626	(98.1)
	4歳	1,615	(100)	22	(1.4)	1,593	(98.6)
	5歳	948	(100)	16	(1.7)	932	(98.3)
	6歳	531	(100)	17	(3.2)	514	(96.8)
	7歳	322	(100)	6	(1.9)	316	(98.1)
	8歳	197	(100)	2	(1.0)	195	(99.0)
	9歳	138	(100)	4	(2.9)	134	(97.1)
10歳以上	283	(100)	11	(3.9)	272	(96.1)	
診断別*	定型例	17,592	(100)	351	(2.0)	17,241	(98.0)
	不定型例	243	(100)	1	(0.4)	242	(99.6)
	不全型	4,092	(100)	75	(1.8)	4,017	(98.2)

\*診断の確実度が不明3人を分析から除外した。

[表8] 性別、年齢別、診断別両親の川崎病既往歴

		総数 (%)		両親の既往歴ありの内訳 (%)										両親の既往なし (%)			
				あり (%)			父あり (%)			母あり (%)			父母の両方あり (%)				
総数		21,930	(100)	309	(1.4)	[100]	167	(0.8)	[54.0]	138	(0.6)	[44.7]	4	(0.0)	[1.3]	21,621	(98.6)
性	男	12,649	(100)	180	(1.4)	[100]	110	(0.9)	[61.1]	67	(0.5)	[37.2]	3	(0.0)	[1.7]	12,469	(98.6)
	女	9,281	(100)	129	(1.4)	[100]	57	(0.6)	[44.2]	71	(0.8)	[55.0]	1	(0.0)	[0.8]	9,152	(98.6)
月・年齢	0-5か月	1,536	(100)	20	(1.3)	[100]	13	(0.8)	[65.0]	5	(0.3)	[25.0]	2	(0.1)	[10.0]	1,516	(98.7)
	6-11か月	3,082	(100)	43	(1.4)	[100]	22	(0.7)	[51.2]	21	(0.7)	[48.8]	0	—	—	3,039	(98.6)
	1歳	6,200	(100)	86	(1.4)	[100]	46	(0.7)	[53.5]	39	(0.6)	[45.3]	1	(0.0)	[1.2]	6,114	(98.6)
	2歳	4,401	(100)	74	(1.7)	[100]	43	(1.0)	[58.1]	31	(0.7)	[41.9]	0	—	—	4,327	(98.3)
	3歳	2,677	(100)	37	(1.4)	[100]	18	(0.7)	[48.6]	18	(0.7)	[48.6]	1	(0.0)	[2.7]	2,640	(98.6)
	4歳	1,615	(100)	17	(1.1)	[100]	11	(0.7)	[64.7]	6	(0.4)	[35.3]	0	—	—	1,598	(98.9)
	5歳	948	(100)	15	(1.6)	[100]	9	(0.9)	[60.0]	6	(0.6)	[40.0]	0	—	—	933	(98.4)
	6歳	531	(100)	7	(1.3)	[100]	2	(0.4)	[28.6]	5	(0.9)	[71.4]	0	—	—	524	(98.7)
	7歳	322	(100)	3	(0.9)	[100]	1	(0.3)	[33.3]	2	(0.6)	[66.7]	0	—	—	319	(99.1)
	8歳	197	(100)	2	(1.0)	[100]	1	(0.5)	[50.0]	1	(0.5)	[50.0]	0	—	—	195	(99.0)
	9歳	138	(100)	2	(1.4)	[100]	0	—	—	2	(1.4)	[100]	0	—	—	136	(98.6)
	10歳以上	283	(100)	3	(1.1)	[100]	1	(0.4)	[33.3]	2	(0.7)	[66.7]	0	—	—	280	(99.0)
診断*	定型例	17,592	(100)	256	(1.5)	[100]	184	(1.0)	[50.0]	184	(1.0)	[50.0]	4	(0.0)	[1.1]	17,336	(98.5)
	不定型例	243	(100)	4	(1.6)	[100]	3	(1.2)	[50.0]	3	(1.2)	[50.0]	0	—	—	239	(98.4)
	不全型	4,092	(100)	49	(1.2)	[100]	36	(0.9)	[47.4]	40	(1.0)	[52.6]	1	(0.0)	[1.3]	4,043	(98.8)

\*診断の確実度が不明3人を分析から除外した。[ ]内は両親の既往歴あり309人を集計した。

[表9] 種類別、性別、年齢別、診断別の心障害の出現率

		総数 (%)	心障害* あり (%)	冠動脈病変**			狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
				小瘤 (%)	中等瘤 (%)	巨大瘤 (%)				
初診時	総数	21,930 (100)	1,017 (4.6)	718 (3.3)	96 (0.4)	12 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	215 (1.0)	
	性	男	12,649 (100)	649 (5.1)	470 (3.7)	62 (0.5)	6 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	130 (1.0)
		女	9,281 (100)	368 (4.0)	248 (2.7)	34 (0.4)	6 (0.1)	1 (0.0)	0 —	85 (0.9)
	年齢	2歳未満	10,818 (100)	586 (5.4)	430 (4.0)	60 (0.6)	6 (0.1)	0 —	1 (0.0)	97 (0.9)
		2歳以上	11,112 (100)	431 (3.9)	288 (2.6)	36 (0.3)	6 (0.1)	2 (0.0)	0 —	118 (1.1)
	診断	定型例	17,592 (100)	706 (4.0)	489 (2.8)	59 (0.3)	8 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	166 (0.9)
		不定型例	243 (100)	147 (60.5)	128 (52.7)	16 (6.6)	3 (1.2)	1 (0.4)	0 —	4 (1.6)
		不全型	4,092 (100)	164 (4.0)	101 (2.5)	21 (0.5)	1 (0.0)	0 —	0 —	45 (1.1)
	急性期***	総数	21,930 (100)	1,770 (8.1)	1,187 (5.4)	211 (1.0)	34 (0.2)	6 (0.0)	2 (0.0)	383 (1.7)
性		男	12,649 (100)	1,142 (9.0)	801 (6.3)	133 (1.1)	17 (0.1)	3 (0.0)	1 (0.0)	223 (1.8)
		女	9,281 (100)	628 (6.8)	386 (4.2)	78 (0.8)	17 (0.2)	3 (0.0)	1 (0.0)	160 (1.7)
年齢		2歳未満	10,818 (100)	1,020 (9.4)	712 (6.6)	143 (1.3)	18 (0.2)	2 (0.0)	2 (0.0)	166 (1.5)
		2歳以上	11,112 (100)	750 (6.7)	475 (4.3)	68 (0.6)	16 (0.1)	4 (0.0)	0 —	217 (2.0)
診断		定型例	17,592 (100)	1,285 (7.3)	832 (4.7)	152 (0.9)	25 (0.1)	4 (0.0)	1 (0.0)	310 (1.8)
		不定型例	243 (100)	198 (81.5)	167 (68.7)	27 (11.1)	4 (1.6)	2 (0.8)	1 (0.4)	5 (2.1)
		不全型	4,092 (100)	287 (7.0)	188 (4.6)	32 (0.8)	5 (0.1)	0 —	0 —	68 (1.7)
後遺症		総数	21,930 (100)	510 (2.3)	305 (1.4)	87 (0.4)	28 (0.1)	6 (0.0)	1 (0.0)	94 (0.4)
	性	男	12,649 (100)	351 (2.8)	222 (1.8)	62 (0.5)	17 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	53 (0.4)
		女	9,281 (100)	159 (1.7)	83 (0.9)	25 (0.3)	11 (0.1)	4 (0.0)	0 —	41 (0.4)
	年齢	2歳未満	10,818 (100)	320 (3.0)	214 (2.0)	55 (0.5)	12 (0.1)	1 (0.0)	1 (0.0)	42 (0.4)
		2歳以上	11,112 (100)	190 (1.7)	91 (0.8)	32 (0.3)	16 (0.1)	5 (0.0)	0 —	52 (0.5)
	診断	定型例	17,592 (100)	372 (2.1)	214 (1.2)	66 (0.4)	22 (0.1)	4 (0.0)	1 (0.0)	72 (0.4)
		不定型例	243 (100)	48 (19.8)	34 (14.0)	11 (4.5)	2 (0.8)	2 (0.8)	0 —	2 (0.8)
		不全型	4,092 (100)	90 (2.2)	57 (1.4)	10 (0.2)	4 (0.1)	0 —	0 —	20 (0.5)

\*冠動脈病変、狭窄、心筋梗塞、弁膜病変のいずれかを認める(1人の患者で複数の心障害ありの場合がある)。

\*\*Zスコアあるいは実測値に基づく評価(評価基準は本文中に記載した通り)。

\*\*\*急性期は川崎病の発病後1か月以内、後遺症は発病後1か月後(発病後30日前後で実施された心エコー評価)と定義した。

[表10] 年齢別、初診時および初回免疫グロブリン投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
初診時病日*	総数	21,922	(100)	10,814	(100)	11,108	(100)
	第1病日	895	(4.1)	619	(5.7)	276	(2.5)
	第2病日	2,704	(12.3)	1,538	(14.2)	1,166	(10.5)
	第3病日	4,476	(20.4)	2,360	(21.8)	2,116	(19.0)
	第4病日	5,543	(25.3)	2,681	(24.8)	2,862	(25.8)
	第5病日	4,363	(19.9)	1,979	(18.3)	2,384	(21.5)
	第6病日	2,208	(10.1)	923	(8.5)	1,285	(11.6)
	第7病日	853	(3.9)	347	(3.2)	506	(4.6)
	第8病日	423	(1.9)	171	(1.6)	252	(2.3)
	第9病日	173	(0.8)	66	(0.6)	107	(1.0)
	第10病日以上	284	(1.3)	130	(1.2)	154	(1.4)
免疫グロブリン投与開始時病日** 1st line	総数	21,041	(100)	10,350	(100)	10,691	(100)
	第1病日	40	(0.2)	27	(0.3)	13	(0.12)
	第2病日	616	(2.9)	424	(4.1)	192	(1.8)
	第3病日	2,578	(12.3)	1,597	(15.4)	981	(9.2)
	第4病日	5,617	(26.7)	2,977	(28.8)	2,640	(24.7)
	第5病日	6,126	(29.1)	2,814	(27.2)	3,312	(31.0)
	第6病日	3,356	(15.9)	1,393	(13.5)	1,963	(18.4)
	第7病日	1,497	(7.1)	604	(5.8)	893	(8.4)
	第8病日	644	(3.1)	260	(2.5)	384	(3.6)
	第9病日	238	(1.1)	93	(0.9)	145	(1.4)
	第10病日以上	329	(1.6)	161	(1.6)	168	(1.6)

\*初診時病日不明(入院中含む)8人を除く21922人を集計した。

\*\*初回免疫グロブリン使用例21050人のうち投与開始時病日不明9人を除く21041人を集計した。  
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表11] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン使用の割合

		総数(%)		1st line			
				免疫グロブリン 使用なし (%)	免疫グロブリン 使用あり (%)		
総数		21,930	(100)	880	(4.0)	21,050	(96.0)
性別	男	12,649	(100)	511	(4.0)	12,138	(96.0)
	女	9,281	(100)	369	(4.0)	8,912	(96.0)
年齢別	0-5か月	1,536	(100)	57	(3.7)	1,479	(96.3)
	6-11か月	3,082	(100)	127	(4.1)	2,955	(95.9)
	1歳	6,200	(100)	280	(4.5)	5,920	(95.5)
	2歳	4,401	(100)	141	(3.2)	4,260	(96.8)
	3歳	2,677	(100)	108	(4.0)	2,569	(96.0)
	4歳	1,615	(100)	58	(3.6)	1,557	(96.4)
	5歳	948	(100)	33	(3.5)	915	(96.5)
	6歳	531	(100)	23	(4.3)	508	(95.7)
	7歳	322	(100)	17	(5.3)	305	(94.7)
	8歳	197	(100)	9	(4.6)	188	(95.4)
	9歳	138	(100)	8	(5.8)	130	(94.2)
	10歳以上	283	(100)	19	(6.7)	264	(93.3)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表12] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン不応例の割合

		免疫グロブリン 使用あり(%)		1st line			
				不応例でない (%)	不応例 (%)		
総数*		21,050	(100)	15,924	(75.6)	5,126	(24.4)
性別	男	12,138	(100)	9,066	(74.7)	3,072	(25.3)
	女	8,912	(100)	6,858	(77.0)	2,054	(23.0)
年齢別	0-5か月	1,479	(100)	1,126	(76.1)	353	(23.9)
	6-11か月	2,955	(100)	2,380	(80.5)	575	(19.5)
	1歳	5,920	(100)	4,605	(77.8)	1,315	(22.2)
	2歳	4,260	(100)	3,167	(74.3)	1,093	(25.7)
	3歳	2,569	(100)	1,893	(73.7)	676	(26.3)
	4歳	1,557	(100)	1,158	(74.4)	399	(25.6)
	5歳	915	(100)	679	(74.2)	236	(25.8)
	6歳	508	(100)	355	(69.9)	153	(30.1)
	7歳	305	(100)	204	(66.9)	101	(33.1)
	8歳	188	(100)	128	(68.1)	60	(31.9)
	9歳	130	(100)	75	(57.7)	55	(42.3)
	10歳以上	264	(100)	154	(58.3)	110	(41.7)

\*初回免疫グロブリン使用例 21050人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表13] 性別、年齢別、診断別、初回治療の割合

		1st line									
		免疫グロブリン 投与あり (%)		ステロイドPSL 投与あり (%)		ステロイドmPSL/パルス 投与あり (%)		シクロスポリン 投与あり (%)		ウリナスタチン 投与あり (%)	
総数*		21,050	(100)	2,448	(11.6)	490	(2.3)	304	(1.4)	262	(1.2)
性別	男	12,138	(100)	1,419	(11.7)	281	(2.3)	163	(1.3)	150	(1.2)
	女	8,912	(100)	1,029	(11.5)	209	(2.3)	16	(0.2)	112	(1.3)
年齢別	0-5か月	1,479	(100)	172	(11.6)	22	(1.5)	53	(3.6)	24	(1.6)
	6-11か月	2,955	(100)	328	(11.1)	67	(2.3)	61	(2.1)	29	(1.0)
	1歳	5,920	(100)	506	(8.5)	117	(2.0)	129	(2.2)	64	(1.1)
	2歳-4歳	8,386	(100)	1,034	(12.3)	221	(2.6)	43	(0.5)	111	(1.3)
	5歳-9歳	2,046	(100)	349	(17.1)	55	(2.7)	2	(0.1)	31	(1.5)
	10歳以上	264	(100)	59	(22.3)	8	(3.0)	45	(17.0)	3	(1.1)
診断別**	定型例	17,239	(100)	2,075	(12.0)	411	(2.4)	265	(1.5)	217	(1.3)
	不定型例	234	(100)	14	(6.0)	7	(3.0)	6	(2.6)	12	(5.1)
	不全型	3,575	(100)	359	(10.0)	72	(2.0)	33	(0.9)	33	(0.9)

\*()内は初回免疫グロブリン使用例 21050人を集計した。

\*\*初回免疫グロブリン使用例 21050人のうち診断不明2名は除いた。

1人の患者に両方用いている例があるため、横の合計は総数を超えることがある。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表14] 性別、年齢別、診断別、不応例の追加治療法

		総数 (%)	2nd line						
			免疫グロブリン 投与あり (%)	ステロイド PSL 投与あり (%)	ステロイド mPSL/パルス 投与あり (%)	シクロスポリン 投与あり (%)	インフリキシマブ 投与あり (%)	ウリナスタチン 投与あり (%)	血漿交換あり (%)
総数*		21,050 (100)	4,853 (23.1)	802 (3.8)	263 (1.2)	294 (1.4)	105 (0.5)	185 (0.9)	5 (0.0)
性別	男	12,138 (100)	2,911 (24.0)	485 (4.0)	159 (1.3)	173 (1.4)	68 (0.6)	109 (0.9)	3 (0.0)
	女	8,912 (100)	1,942 (21.8)	317 (3.6)	104 (1.2)	121 (1.4)	37 (0.4)	76 (0.9)	2 (0.0)
年齢別	2歳未満	10,354 (100)	2,160 (20.9)	338 (3.3)	105 (1.0)	134 (1.3)	29 (0.3)	76 (0.7)	3 (0.0)
	2歳以上	10,696 (100)	2,693 (25.2)	464 (4.3)	158 (1.5)	160 (1.5)	76 (0.7)	109 (1.0)	2 (0.0)
診断別**	定型例	17,239 (100)	4,075 (23.6)	665 (3.9)	215 (1.2)	236 (1.4)	86 (0.5)	141 (0.8)	2 (0.0)
	不定型例	234 (100)	68 (29.1)	11 (4.7)	1 (0.4)	12 (5.1)	6 (2.6)	3 (1.3)	0 —
	不全型	3,575 (100)	710 (19.9)	126 (3.5)	47 (1.3)	46 (1.3)	13 (0.4)	41 (1.1)	3 (0.1)

\*()内は初回免疫グロブリン使用例 21050人を集計した。

\*\*初回免疫グロブリン使用例 21050人のうち診断不明2名は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表15] 性別、年齢別、診断別、追加治療法(3rd line)

		総数 (%)	3rd line						
			免疫グロブリン 投与あり (%)	ステロイド PSL 投与あり (%)	ステロイド mPSL/パルス 投与あり (%)	シクロスポリン 投与あり (%)	インフリキシマブ 投与あり (%)	ウリナスタチン 投与あり (%)	血漿交換あり (%)
総数		21,930 (100)	578 (2.6)	197 (0.9)	156 (0.7)	384 (1.8)	513 (2.3)	68 (0.3)	77 (0.4)
性別	男	12,649 (100)	343 (2.7)	117 (0.9)	96 (0.8)	238 (1.9)	310 (2.5)	43 (0.3)	50 (0.4)
	女	9,281 (100)	235 (2.5)	80 (0.9)	60 (0.6)	146 (1.6)	203 (2.2)	25 (0.3)	27 (0.3)
年齢別	2歳未満	10,818 (100)	311 (2.9)	94 (0.9)	82 (0.8)	201 (1.9)	163 (1.5)	76 (0.7)	3 (0.0)
	2歳以上	11,112 (100)	267 (2.4)	103 (0.9)	74 (0.7)	183 (1.6)	350 (3.1)	36 (0.3)	44 (0.4)
診断別*	定型例	17,592 (100)	488 (2.8)	164 (0.9)	130 (0.7)	321 (1.8)	457 (2.6)	52 (0.3)	65 (0.4)
	不定型例	243 (100)	11 (4.5)	2 (0.8)	1 (0.4)	10 (4.1)	7 (2.9)	3 (1.2)	5 (2.1)
	不全型	4,092 (100)	79 (1.9)	31 (0.8)	25 (0.6)	53 (1.3)	49 (1.2)	13 (0.3)	7 (0.2)

\*診断不明3人を除く21927人を集計した。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表16] 性別、年齢別、診断別の新型コロナウイルス感染症の検査状況

		新型コロナウイルスに関する検査							
		総数 (%)		実施 (%)		未実施 (%)		未実施 みなし陽性 (%)	
総数*		21,889	(100)	19,531	(89.2)	2,347	(10.7)	11	(0.1)
性	男	12,625	(100)	11,266	(89.2)	1,354	(10.7)	5	(0.0)
	女	9,264	(100)	8,265	(89.2)	993	(10.7)	6	(0.1)
年齢	0-5か月	1,531	(100)	1,376	(89.9)	155	(10.1)	0	—
	6-11か月	3,077	(100)	2,766	(89.9)	308	(10.0)	3	(0.1)
	1歳	6,187	(100)	5,492	(88.8)	695	(11.2)	0	—
	2歳	4,394	(100)	3,878	(88.3)	515	(11.7)	1	(0.0)
	3歳	2,672	(100)	2,366	(88.5)	306	(11.5)	0	—
	4歳	1,613	(100)	1,450	(89.9)	163	(10.1)	0	—
	5歳	946	(100)	846	(89.4)	98	(10.4)	2	(0.2)
	6歳	529	(100)	477	(90.2)	49	(9.3)	3	(0.6)
	7歳	322	(100)	296	(91.9)	25	(7.8)	1	(0.3)
	8歳	197	(100)	185	(93.9)	12	(6.1)	0	—
	9歳	138	(100)	133	(96.4)	5	(3.6)	0	—
	10歳以上	283	(100)	266	(94.0)	16	(5.7)	1	(0.4)
診断 **	定型例	17,567	(100)	15,698	(89.4)	1,862	(10.6)	7	(0.0)
	不定型例	243	(100)	220	(90.5)	23	(9.5)	0	—
	不全型	4,076	(100)	3,612	(88.6)	460	(11.3)	4	(0.1)

\*新型コロナウイルス感染症の検査について21889人について(不明41人を除外)集計した。

\*\*21889人のうち診断の確実度が不明3人を除外して集計した。

[表17] 性別、年齢別、診断別の新型コロナウイルス感染症の検査内容

		新型コロナウイルスに関する検査内容 1 番目									
		総数 (%)		PCR検査 (%)		抗原検査 (%)		抗体検査 (%)		その他 (%)	
総数*		19,529	(100)	11,627	(59.5)	7,260	(37.2)	112	(0.6)	530	(2.7)
性	男	11,266	(100)	6,744	(59.9)	4,151	(36.8)	63	(0.6)	308	(2.7)
	女	8,263	(100)	4,883	(59.1)	3,109	(37.6)	49	(0.6)	222	(2.7)
年齢	0-5か月	1,376	(100)	830	(60.3)	502	(36.5)	2	(0.1)	42	(3.1)
	6-11か月	2,766	(100)	1,661	(60.1)	1,023	(37.0)	10	(0.4)	72	(2.6)
	1歳	5,491	(100)	3,213	(58.5)	2,109	(38.4)	25	(0.5)	144	(2.6)
	2歳	3,878	(100)	2,371	(61.1)	1,385	(35.7)	23	(0.6)	99	(2.6)
	3歳	2,366	(100)	1,398	(59.1)	886	(37.4)	11	(0.5)	71	(3.0)
	4歳	1,449	(100)	880	(60.7)	520	(35.9)	11	(0.8)	38	(2.6)
	5歳	846	(100)	477	(56.4)	339	(40.1)	6	(0.7)	24	(2.8)
	6歳	477	(100)	264	(55.3)	194	(40.7)	6	(1.3)	13	(2.7)
	7歳	296	(100)	175	(59.1)	108	(36.5)	5	(1.7)	8	(2.7)
	8歳	185	(100)	105	(56.8)	71	(38.4)	5	(2.7)	4	(2.2)
	9歳	133	(100)	84	(63.2)	40	(30.1)	3	(2.3)	6	(4.5)
	10歳以上	266	(100)	169	(63.5)	83	(31.2)	5	(1.9)	9	(3.4)
診断**	定型例	15,697	(100)	9,366	(59.7)	5,812	(37.0)	88	(0.6)	431	(2.7)
	不定型例	220	(100)	138	(62.7)	80	(36.4)	0	—	2	(0.9)
	不全型	3,611	(100)	2,123	(58.8)	1,367	(37.9)	24	(0.7)	97	(2.7)

\*新型コロナウイルス感染症検査あり19531人のうち検査内容不明の2人を除外して集計した。

\*\*新型コロナウイルス感染症検査あり19529人のうち診断の確実度が不明1人を除外して集計した。

[表18] 性別、年齢別、診断別の新型コロナウイルス感染症の検査内容

		新型コロナウイルスに関する検査内容 2番目									
		総数 (%)		PCR検査 (%)		抗原検査 (%)		抗体検査 (%)		その他 (%)	
総数*		19,531	(100)	0	—	661	(3.4)	67	(0.3)	117	(0.6)
性	男	11,266	(100)	0	—	414	(3.7)	40	(0.4)	77	(0.7)
	女	8,265	(100)	0	—	247	(3.0)	27	(0.3)	40	(0.5)
年齢	0-5か月	1,376	(100)	0	—	32	(2.3)	5	(0.4)	12	(0.9)
	6-11か月	2,766	(100)	0	—	101	(3.7)	2	(0.1)	11	(0.4)
	1歳	5,492	(100)	0	—	169	(3.1)	17	(0.3)	30	(0.5)
	2歳	3,878	(100)	0	—	124	(3.2)	12	(0.3)	26	(0.7)
	3歳	2,366	(100)	0	—	85	(3.6)	8	(0.3)	16	(0.7)
	4歳	1,450	(100)	0	—	55	(3.8)	5	(0.3)	13	(0.9)
	5歳	846	(100)	0	—	34	(4.0)	1	(0.1)	5	(0.6)
	6歳	477	(100)	0	—	21	(4.4)	4	(0.8)	2	(0.4)
	7歳	296	(100)	0	—	11	(3.7)	2	(0.7)	0	—
	8歳	185	(100)	0	—	10	(5.4)	4	(2.2)	0	—
	9歳	133	(100)	0	—	9	(6.8)	3	(2.3)	0	—
	10歳以上	266	(100)	0	—	10	(3.8)	4	(1.5)	2	(0.8)
診断**	定型例	15,698	(100)	0	—	531	(3.4)	48	(0.3)	93	(0.6)
	不定型例	220	(100)	0	—	11	(5.0)	8	(3.6)	0	—
	不全型	3,612	(100)	0	—	119	(3.3)	10	(0.3)	24	(0.7)

\*新型コロナウイルス感染症検査あり19531人を集計した。

\*\*新型コロナウイルス感染症検査あり19531人のうち診断の確実度が不明1人を除外して集計した。

[表19] 性別、年齢別、診断別の新型コロナウイルス感染症の検査内容

		新型コロナウイルスに関する検査内容 3番目									
		総数 (%)		PCR検査 (%)		抗原検査 (%)		抗体検査 (%)		その他 (%)	
総数*		19,531	(100)	0	—	0	—	7	(0.0)	3	(0.0)
性	男	11,266	(100)	0	—	0	—	4	(0.0)	2	(0.0)
	女	8,265	(100)	0	—	0	—	3	(0.0)	1	(0.0)
年齢	0-5か月	1,376	(100)	0	—	0	—	0	—	1	(0.1)
	6-11か月	2,766	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	1歳	5,492	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	2歳	3,878	(100)	0	—	0	—	0	—	1	(0.0)
	3歳	2,366	(100)	0	—	0	—	1	(0.0)	0	—
	4歳	1,450	(100)	0	—	0	—	1	(0.1)	0	—
	5歳	846	(100)	0	—	0	—	3	(0.4)	1	(0.1)
	6歳	477	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	7歳	296	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	8歳	185	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	9歳	133	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
10歳以上	266	(100)	0	—	0	—	2	(0.8)	0	—	
診断**	定型例	15,698	(100)	0	—	0	—	5	(0.0)	3	(0.0)
	不定型例	220	(100)	0	—	0	—	0	—	0	—
	不全型	3,612	(100)	0	—	0	—	2	(0.1)	0	—

\*新型コロナウイルス感染症検査あり19531人を集計した。

\*\*新型コロナウイルス感染症検査あり19531人のうち診断の確実度が不明1人を除外して集計した。

[表20] 性別、年齢別、診断別の新型コロナウイルス感染症の検査結果

		新型コロナウイルスに関する検査結果									
		総数 (%)		陽性 (%)		陰性 (%)		両方 (%)		不明 (%)	
総数*		19,531	(100)	393	(2.0)	19,123	(97.9)	10	(0.1)	5	(0.0)
性	男	11,266	(100)	230	(2.0)	11,027	(97.9)	4	(0.0)	5	(0.0)
	女	8,265	(100)	163	(2.0)	8,096	(98.0)	6	(0.1)	0	—
年齢	0-5か月	1,376	(100)	15	(1.1)	1,360	(98.8)	1	(0.1)	0	—
	6-11か月	2,766	(100)	39	(1.4)	2,727	(98.6)	0	—	0	—
	1歳	5,492	(100)	81	(1.5)	5,409	(98.5)	0	—	2	(0.0)
	2歳	3,878	(100)	67	(1.7)	3,809	(98.2)	2	(0.1)	0	—
	3歳	2,366	(100)	48	(2.0)	2,316	(97.9)	2	(0.1)	0	—
	4歳	1,450	(100)	28	(1.9)	1,420	(97.9)	0	—	2	(0.1)
	5歳	846	(100)	20	(2.4)	825	(97.5)	1	(0.1)	0	—
	6歳	477	(100)	17	(3.6)	460	(96.4)	0	—	0	—
	7歳	296	(100)	21	(7.1)	273	(92.2)	2	(0.7)	0	—
	8歳	185	(100)	14	(7.6)	170	(91.9)	1	(0.5)	0	—
	9歳	133	(100)	15	(11.3)	117	(88.0)	1	(0.8)	0	—
	10歳以上	266	(100)	28	(10.5)	237	(89.1)	0	—	1	(0.4)
診断**	定型例	15,698	(100)	294	(1.9)	15,394	(98.1)	8	(0.1)	2	(0.0)
	不定型例	220	(100)	4	(1.8)	216	(98.2)	0	—	0	—
	不全型	3,612	(100)	95	(2.6)	3,512	(97.2)	2	(0.1)	3	(0.1)

\*新型コロナウイルス感染症検査ありを集計した。

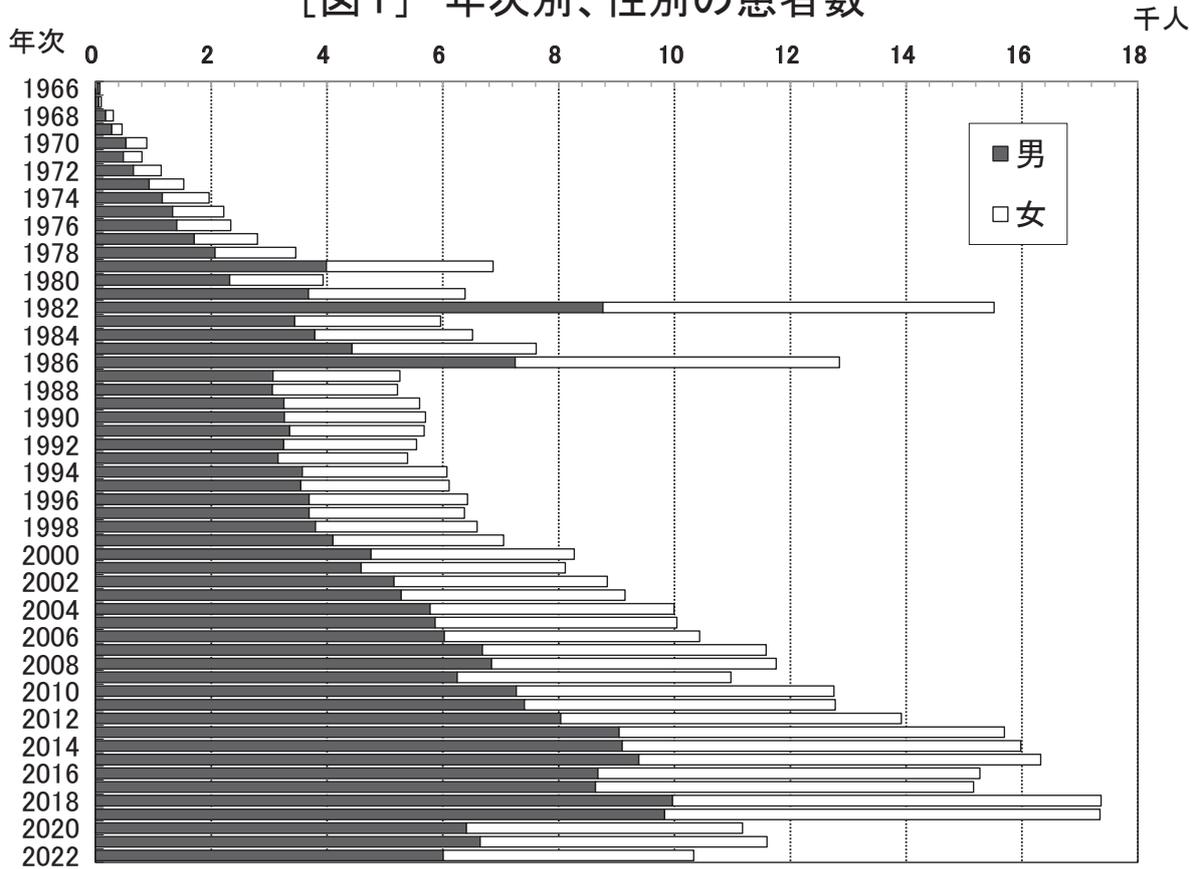
\*\*新型コロナウイルス感染症検査ありのうち診断の確実度が不明1人を除外して集計した。

[表21] 性別、年齢別、診断別、新型コロナウイルス感染症とMIS-C

		新型コロナウイルス感染症とMIS-C									
		総数 (%)		川崎病 (MIS-C否定) (%)		川崎病だがMIS-C の可能性もある (%)		MIS-Cだが川崎病 の可能性もある (%)		川崎病の診断基準 を満たすMIS-C (%)	
総数*		12,538	(100)	12,136	(96.8)	249	(2.0)	64	(0.5)	89	(0.7)
性	男	7,199	(100)	6,962	(96.7)	147	(2.0)	35	(0.5)	55	(0.8)
	女	5,339	(100)	5,174	(96.9)	102	(1.9)	29	(0.5)	34	(0.6)
年齢	0-5か月	882	(100)	870	(98.6)	11	(1.2)	1	(0.1)	0	—
	6-11か月	1,782	(100)	1,766	(99.1)	14	(0.8)	2	(0.1)	0	—
	1歳	3,486	(100)	3,433	(98.5)	52	(1.5)	0	—	1	(0.0)
	2歳	2,467	(100)	2,422	(98.2)	39	(1.6)	3	(0.1)	3	(0.1)
	3歳	1,527	(100)	1,494	(97.8)	22	(1.4)	4	(0.3)	7	(0.5)
	4歳	918	(100)	888	(96.7)	17	(1.9)	6	(0.7)	7	(0.8)
	5歳	570	(100)	544	(95.4)	14	(2.5)	3	(0.5)	9	(1.6)
	6歳	315	(100)	285	(90.5)	11	(3.5)	8	(2.5)	11	(3.5)
	7歳	205	(100)	167	(81.5)	23	(11.2)	3	(1.5)	12	(5.9)
	8歳	124	(100)	94	(75.8)	13	(10.5)	9	(7.3)	8	(6.5)
	9歳	78	(100)	59	(75.6)	4	(5.1)	8	(10.3)	7	(9.0)
	10歳以上	184	(100)	114	(62.0)	29	(15.8)	17	(9.2)	24	(13.0)
診断	定型例	10,024	(100)	9,751	(97.3)	177	(1.8)	20	(0.2)	76	(0.8)
	不定型例	138	(100)	131	(94.9)	5	(3.6)	0	—	2	(1.4)
	不全型	2,376	(100)	2,254	(94.9)	67	(2.8)	44	(1.9)	11	(0.5)

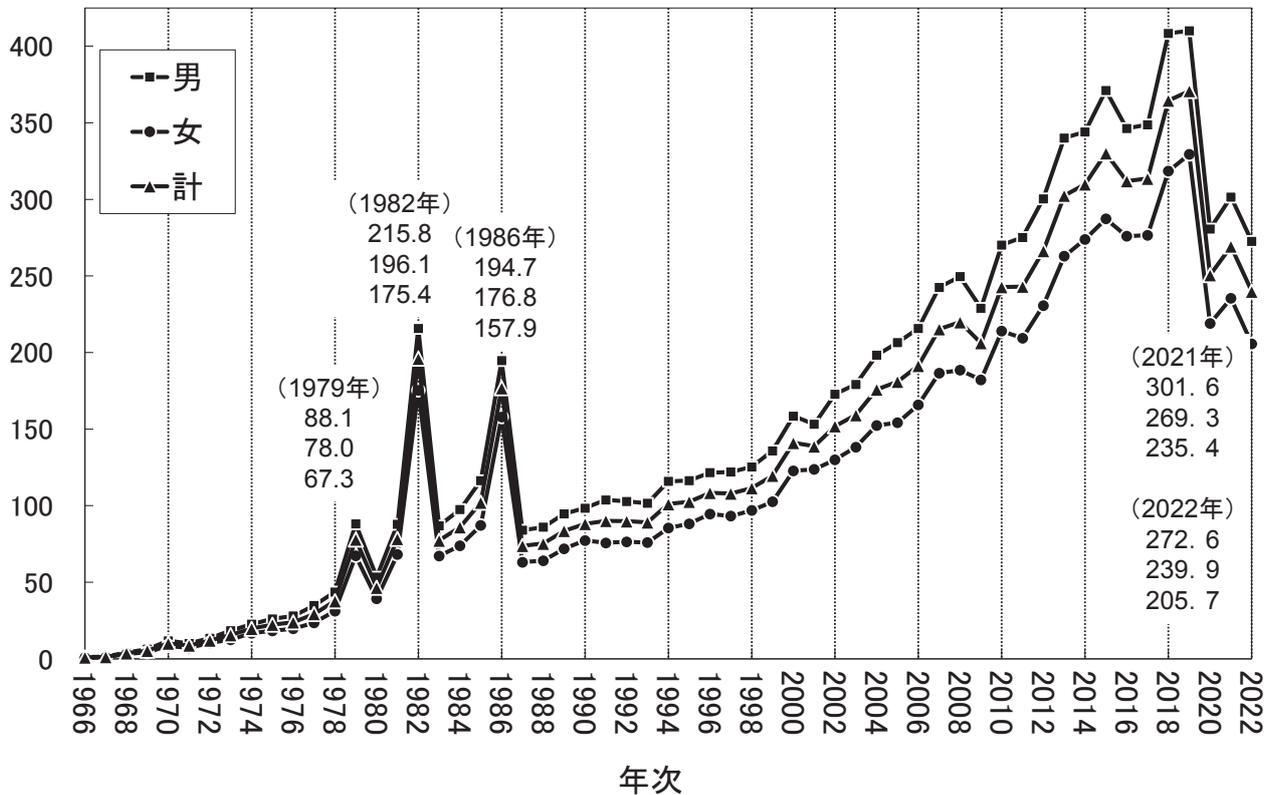
\*MIS-Cとの関連の記載がある者のみ集計した。

[図1] 年次別、性別の患者数

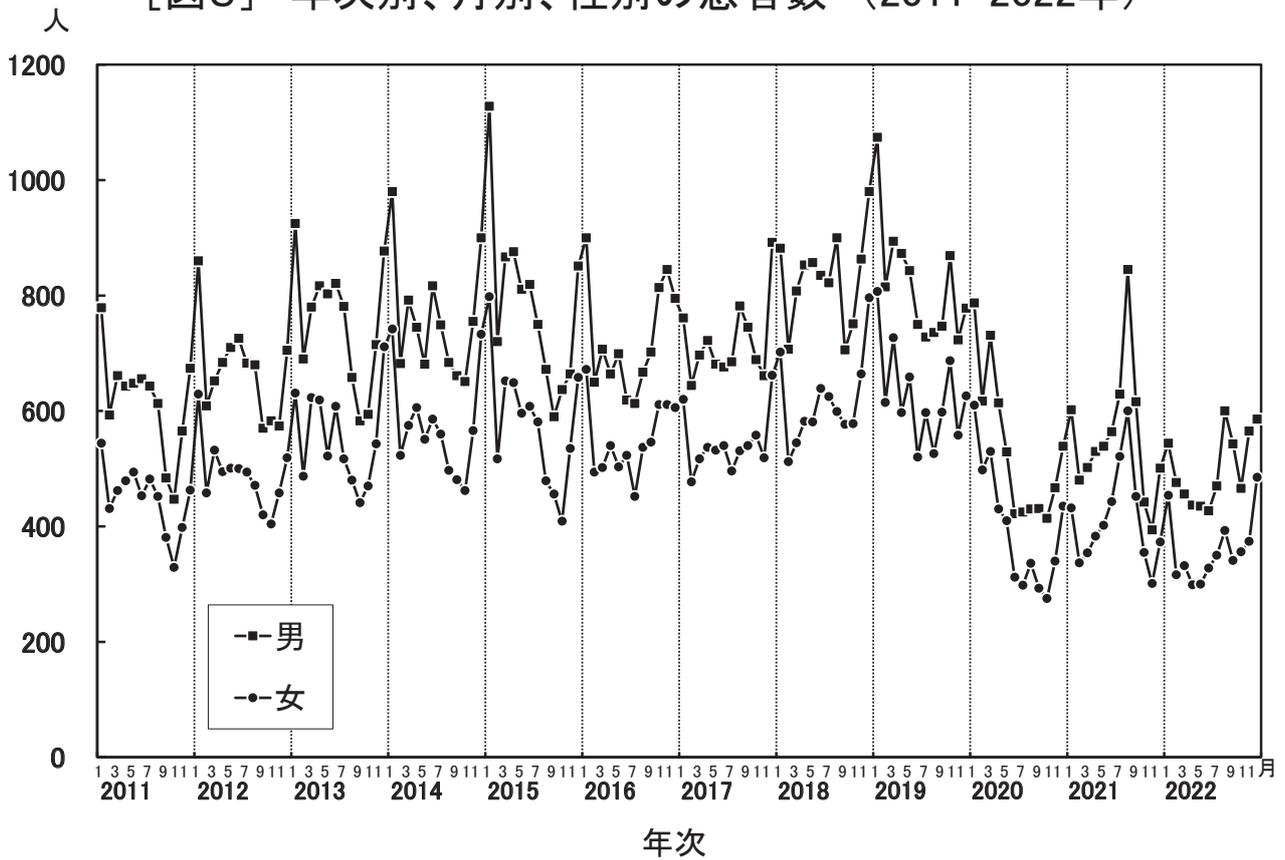


[図2] 年次別、性別の罹患率

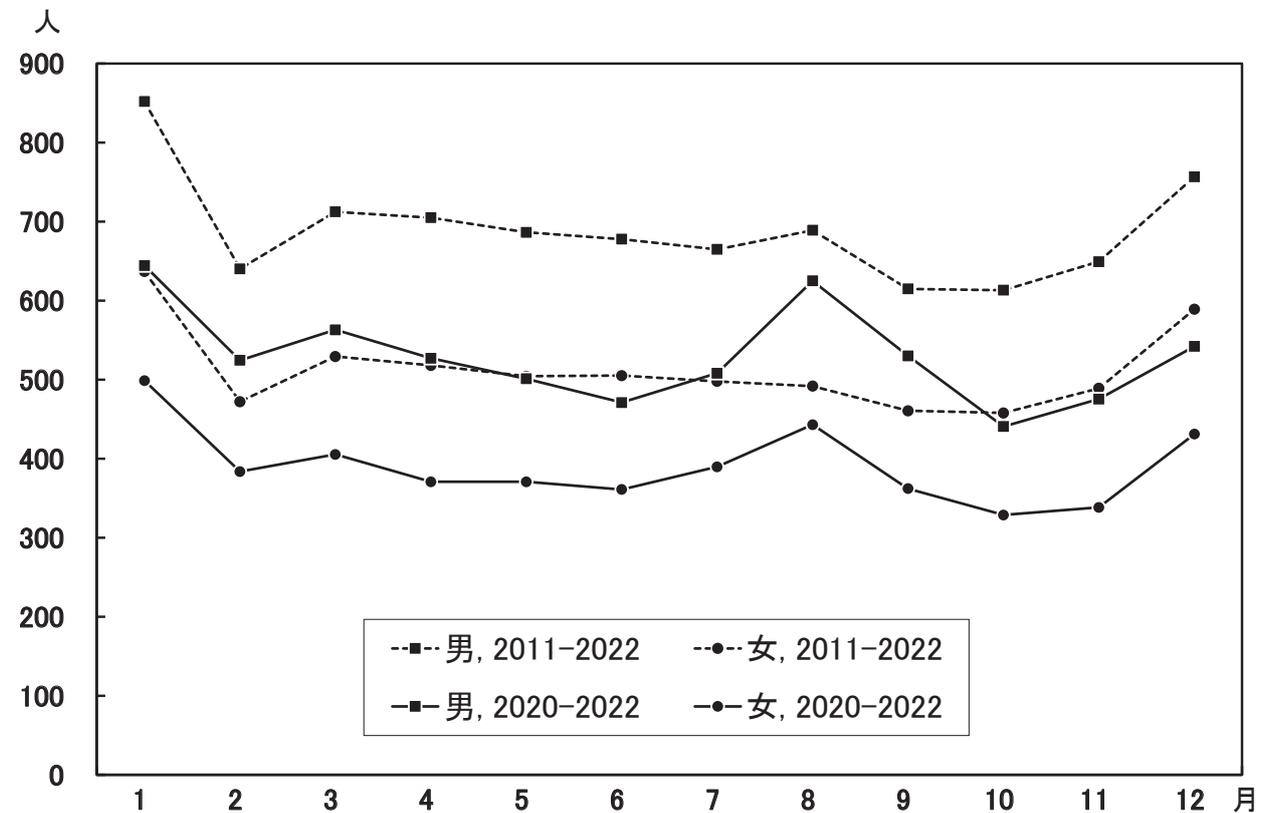
0-4歳人口10万対



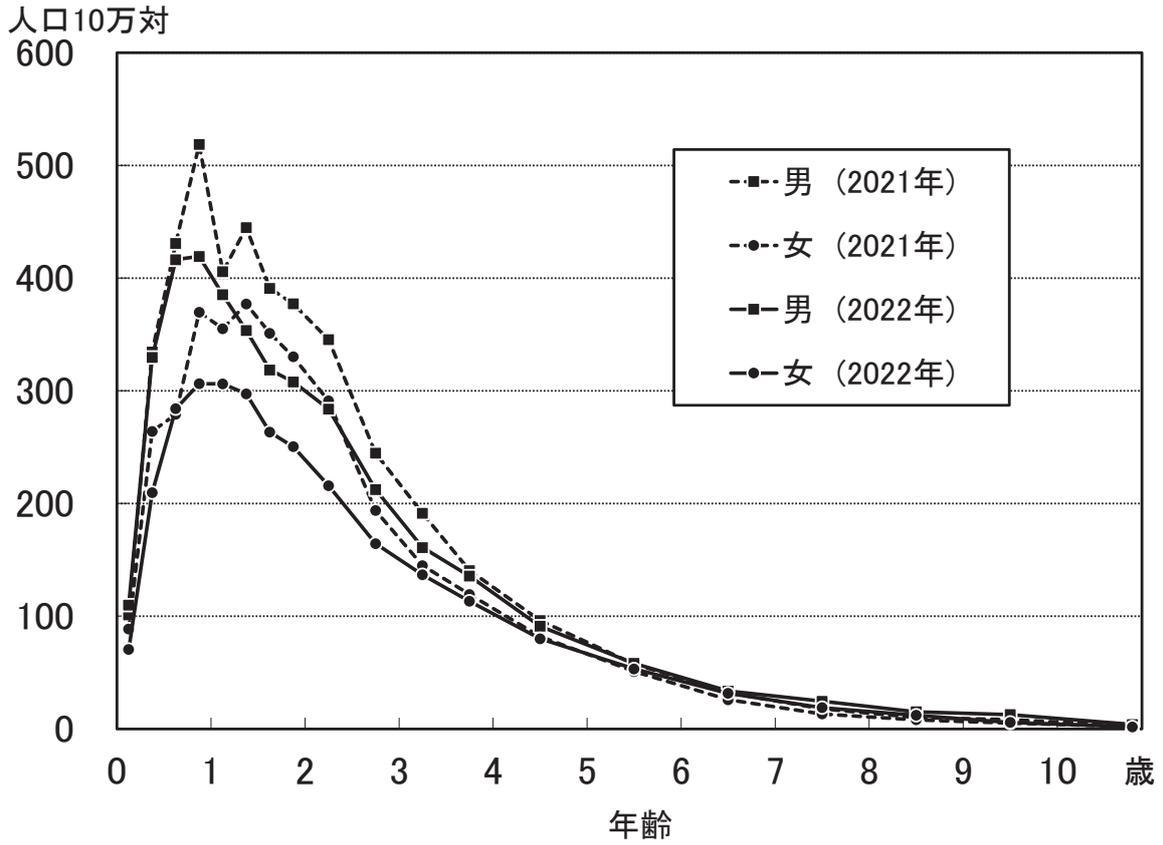
[図3] 年次別、月別、性別の患者数 (2011-2022年)



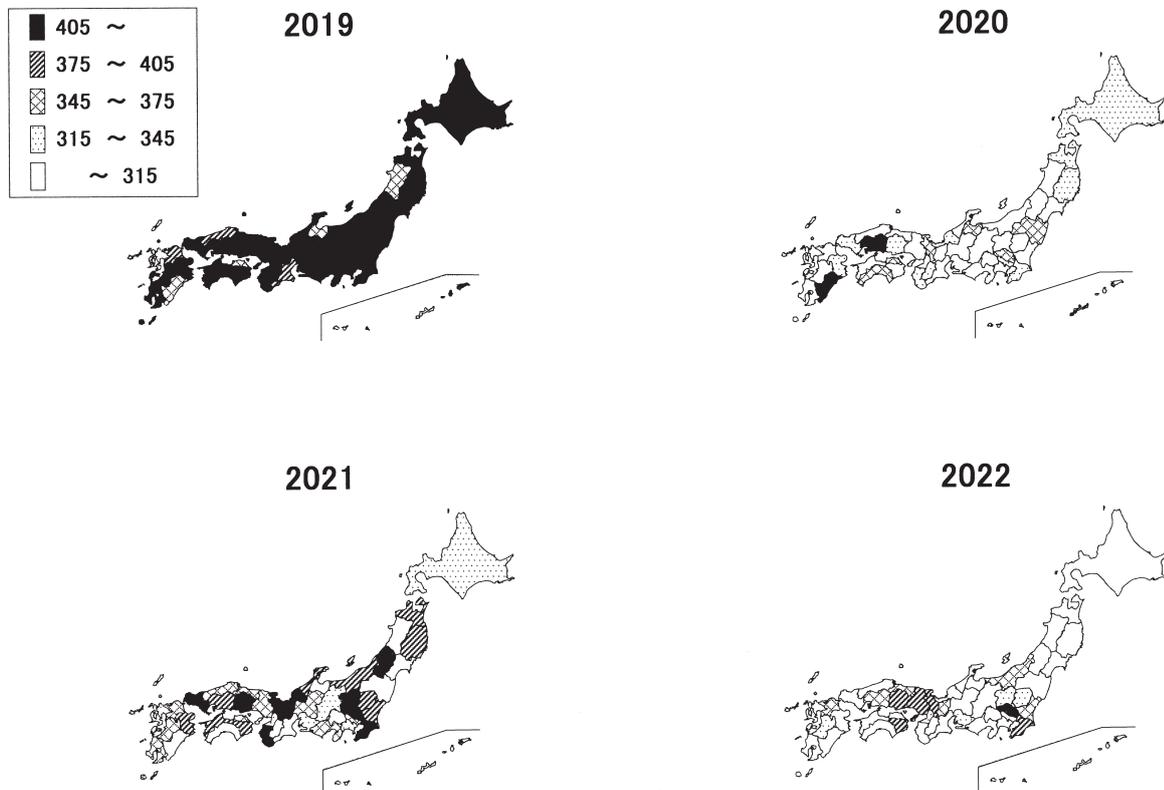
[図4] 月別、性別の患者数(2011-2022年平均・2020-2022年平均)



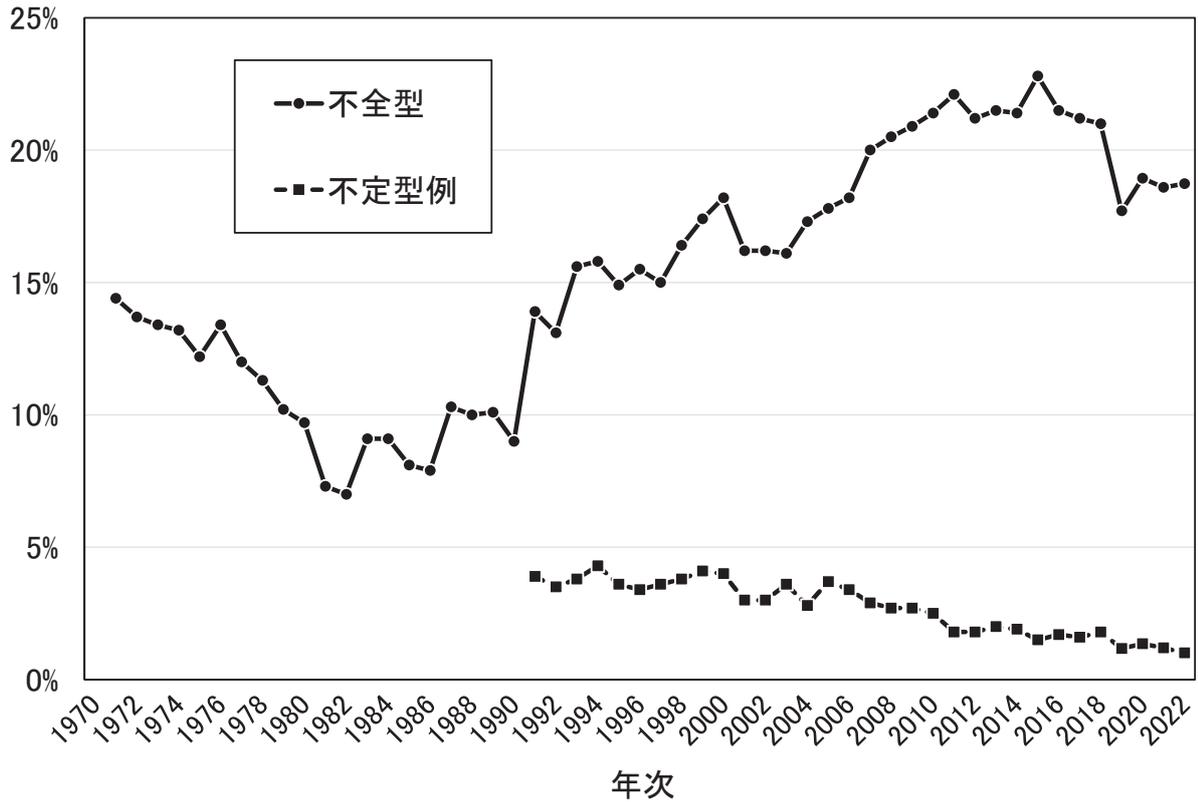
[図5] 性別、年齢別の罹患率（2021年・2022年）



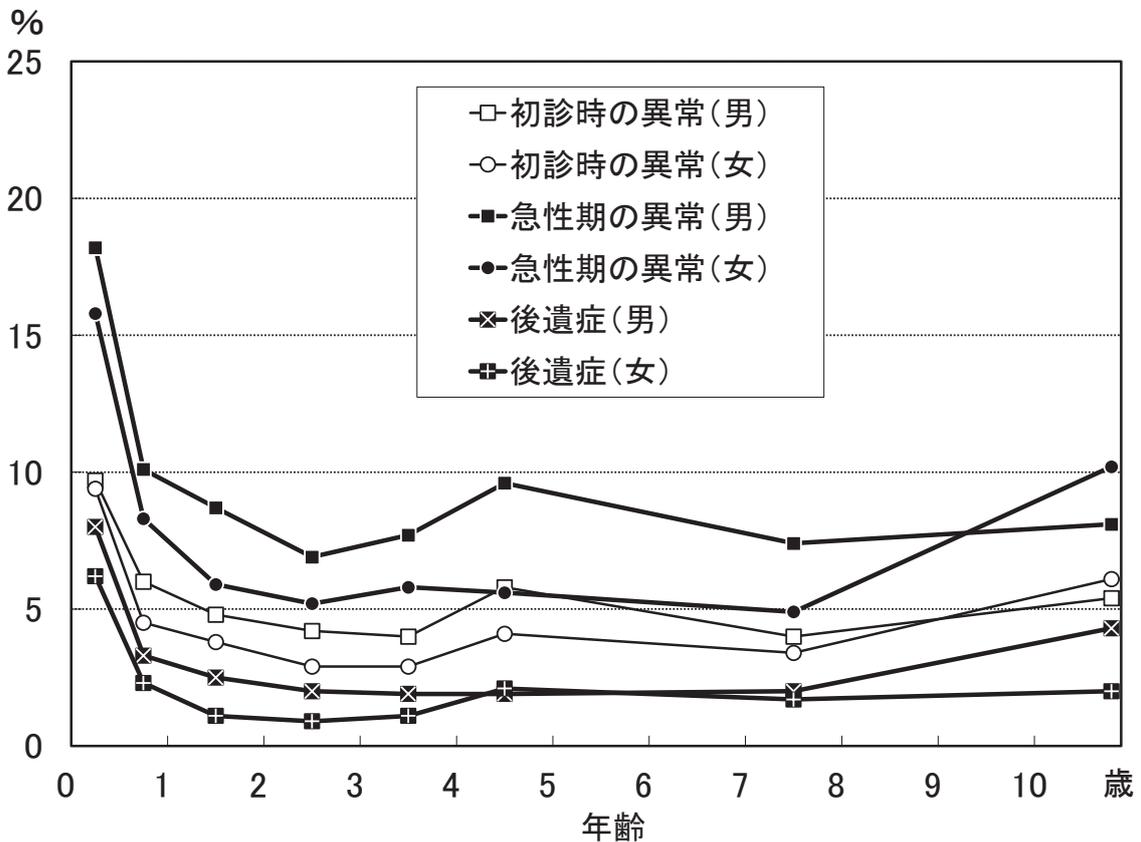
[図6] 都道府県別の罹患率（2019年～2022年）



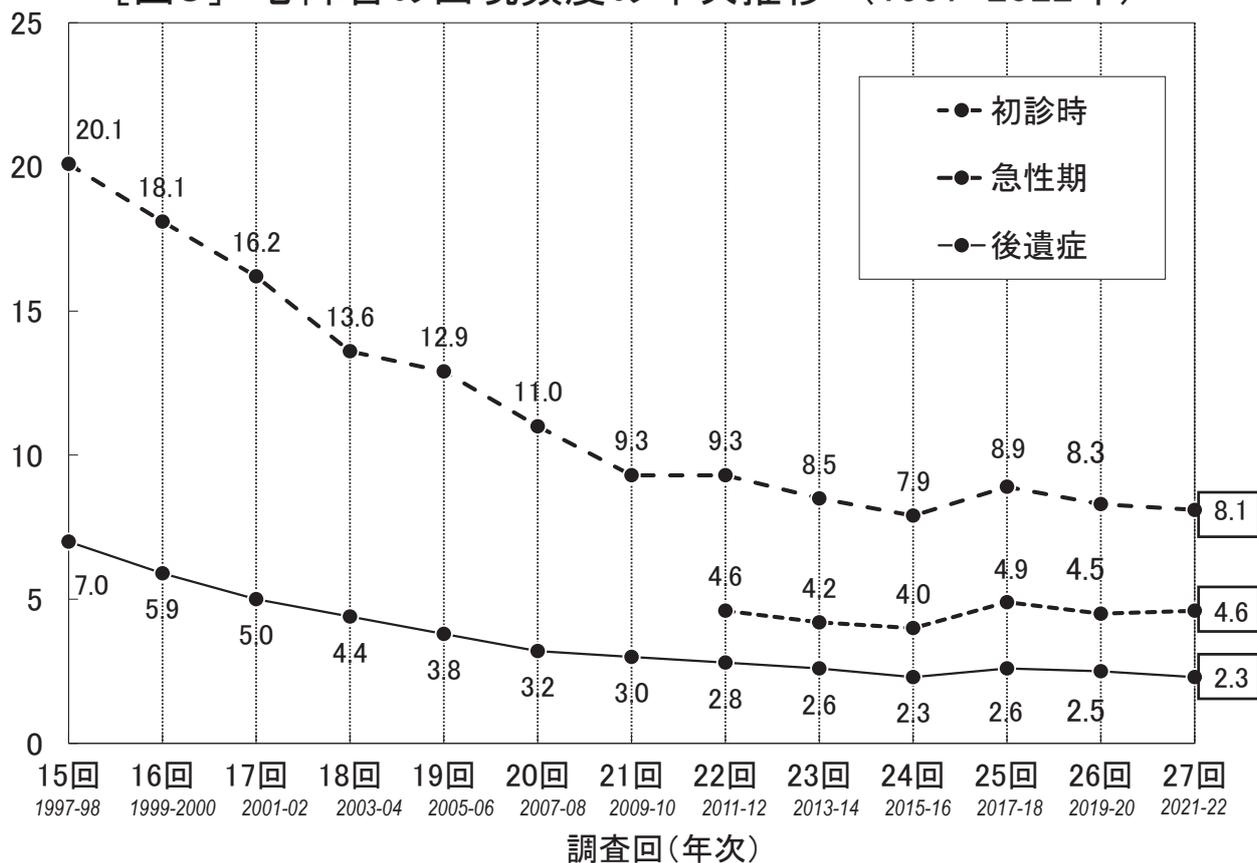
[図7] 診断の確実度の年次推移 (1970-2022年)



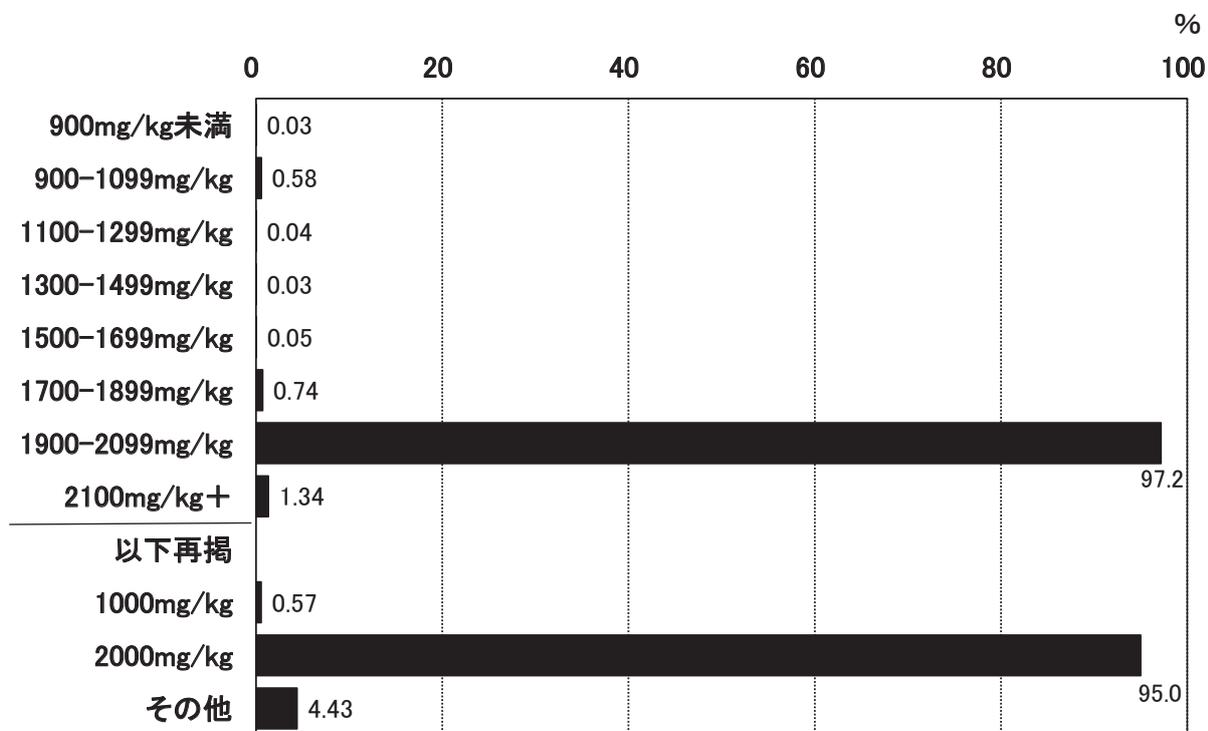
[図8] 性別、年齢別の心障害の出現頻度 (2021-2022年)



【図9】 心障害の出現頻度の年次推移（1997-2022年）

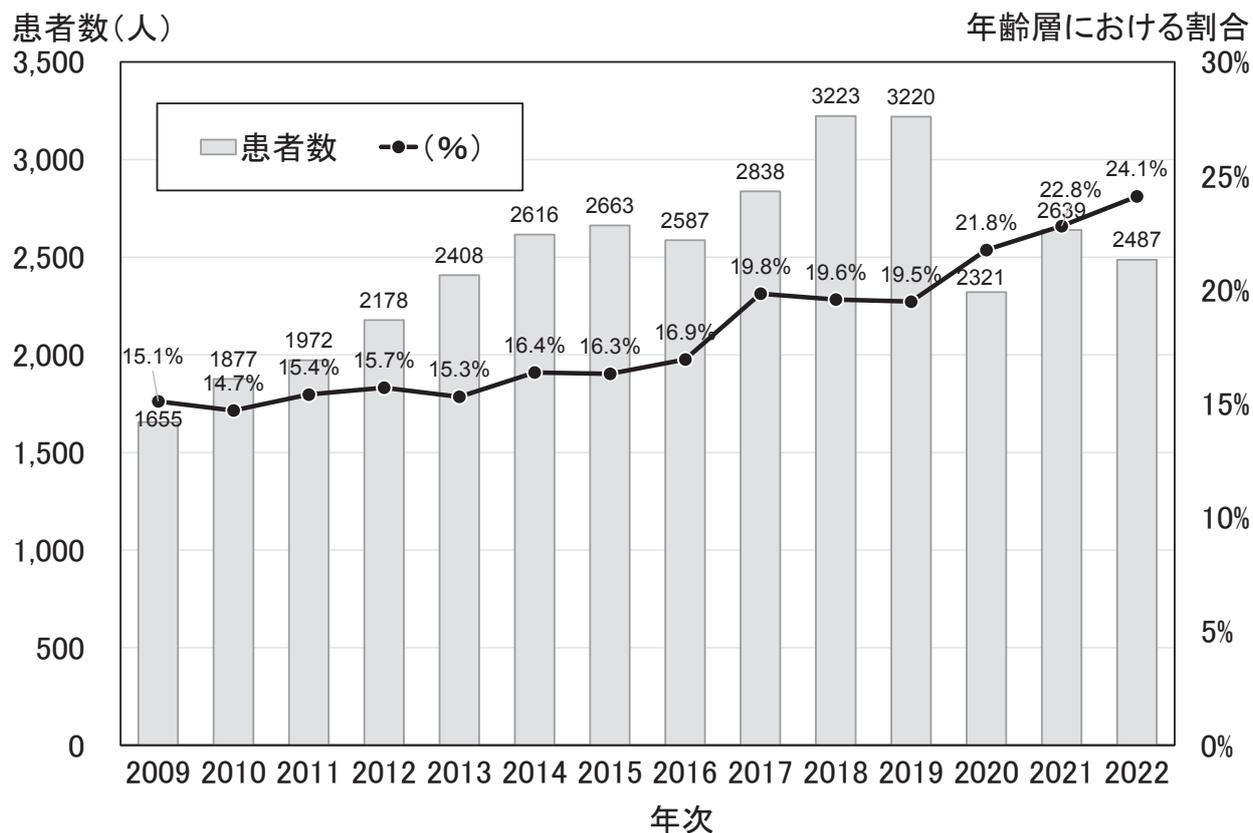


【図10】 初回免疫グロブリン使用総量の分布

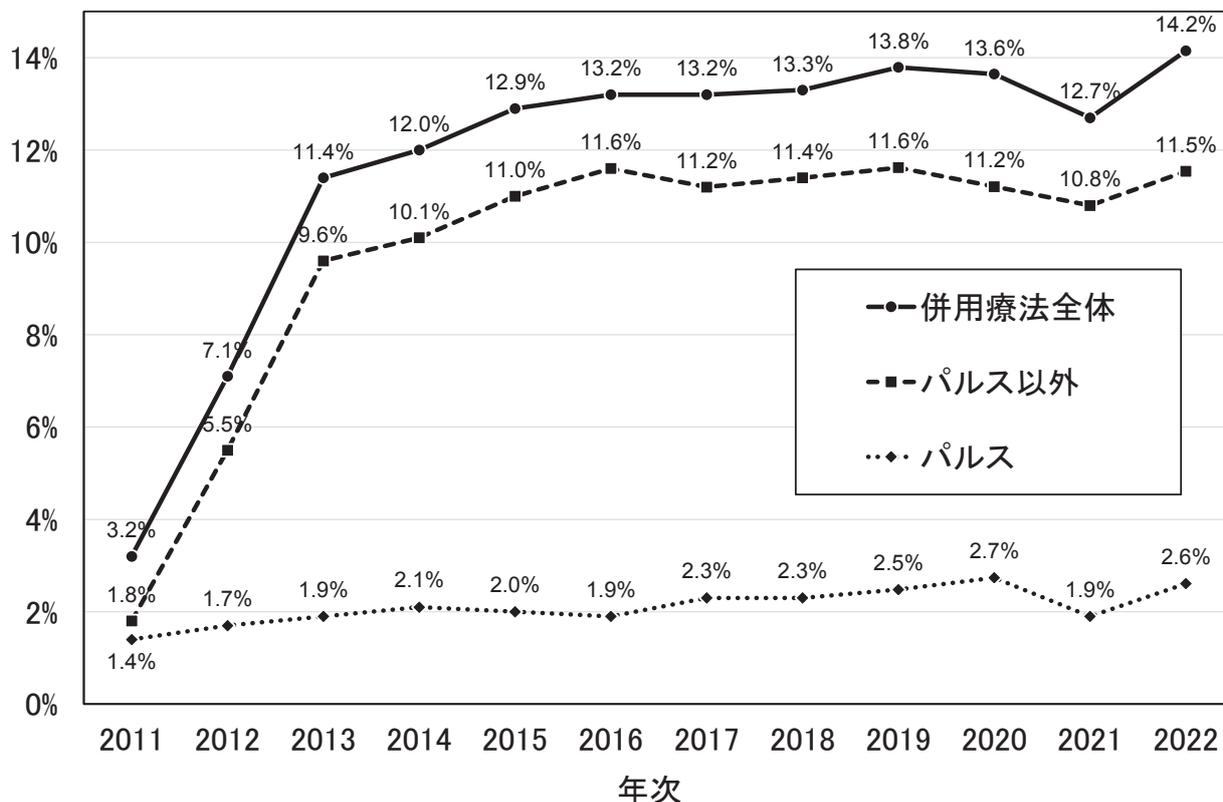


\* 初回免疫グロブリン使用例21050人のうち投与量不明11人を除く21039人を集計

[図11] 初回免疫グロブリン治療不応例の年次推移（2009-2022年）



[図12] 初回免疫グロブリン+ステロイド併用療法の年次推移（2011-2022年）



## 第27回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

### 1. 北海道

国立病院機構 旭川医療センター  
NTT東日本札幌病院  
札幌医科大学附属病院  
北海道立 旭川肢体不自由児総合療育センター  
市立札幌病院  
小樽市立病院  
市立函館病院  
江別市立病院  
千歳市立 千歳市民病院  
市立三笠総合病院  
岩見沢市立総合病院  
市立美唄病院  
砂川市立病院  
滝川市立病院  
あかびら市立病院  
市立旭川病院  
名寄市立総合病院  
市立室蘭総合病院  
苫小牧市立病院  
公立芽室病院  
市立根室病院  
町立中標津病院  
町立別海病院  
市立稚内病院  
留萌市立病院  
清水赤十字病院  
総合病院 釧路赤十字病院  
北見赤十字病院  
北海道社会事業協会 余市病院  
北海道社会事業協会 岩内病院  
北海道社会事業協会 帯広病院  
JA北海道厚生連 札幌厚生病院  
JA北海道厚生連 旭川厚生病院  
JA北海道厚生連 帯広厚生病院  
JA北海道厚生連 網走厚生病院  
JA北海道厚生連 遠軽厚生病院  
地域医療機能推進機構 北海道病院  
製鉄記念室蘭病院  
母恋 日鋼記念病院  
王子総合病院  
函館厚生院 函館五稜郭病院  
函館共愛会 共愛会病院  
母恋 天使病院  
勤医協札幌病院  
地域医療機能推進機構 札幌北辰病院  
日高徳洲会病院  
慶愛 慶愛病院  
北楡会 札幌北楡病院  
北翔会 医療福祉センター札幌あゆみの園  
北海道済生会小樽病院 みどりの里  
徳洲会 帯広徳洲会病院  
北海道立 子ども総合医療・療育センター  
公和会 中村記念愛成病院  
北光会 朝里中央病院  
北斗 北斗病院  
自衛隊札幌病院  
国家公務員共済組合連合会 KKR札幌医療センター  
北海道立 江差病院  
旭川医科大学病院  
愛育病院  
北海道療育園  
北海道療育園 美幌療育病院  
溪仁会 手稲溪仁会病院

北農会 恵み野病院  
シロアムこどもクリニック

### 2. 青森県

国立病院機構 弘前総合医療センター  
弘前大学医学部附属病院  
青森県立中央病院  
青森市民病院  
八戸市立市民病院  
つがる西北五広域連合 つがる総合病院  
つがる西北五広域連合 かなぎ病院  
中部上北広域事業組合 公立 七戸病院  
十和田市立中央病院  
下北医療センター むつ総合病院  
八戸赤十字病院  
青森県立 はまなす医療療育センター  
三沢市立 三沢病院  
国立病院機構 青森病院  
津軽保健生活協同組合 健生病院  
赤心会 十和田東病院

### 3. 岩手県

岩手県立 釜石病院  
岩手県立 宮古病院  
岩手県立 磐井病院  
岩手県立 高田病院  
岩手県立大船渡病院  
岩手県立 二戸病院  
盛岡赤十字病院  
岩手医科大学附属病院  
岩手県立中部病院  
みちのく愛隣協会 東八幡平病院

### 4. 宮城県

国立病院機構 仙台医療センター  
国立病院機構 宮城病院  
東北大学病院  
仙台市立病院  
気仙沼市立病院  
南三陸町 南三陸病院  
公立 刈田総合病院  
みやぎ県南中核病院  
公立 黒川病院  
登米市立 登米市民病院  
仙台赤十字病院  
宮城厚生協会 坂総合病院  
岩切病院  
スズキ病院 スズキ記念病院  
栗原市立 栗原中央病院  
東北医科薬科大学病院  
国立病院機構 仙台北西多賀病院  
地域医療機能推進機構 仙台病院  
光ケ丘愛世会 光ケ丘スペルマン病院  
労働者健康安全機構 東北労災病院  
徳洲会 仙台徳洲会病院  
登米市立米谷病院

### 5. 秋田県

大館市立総合病院  
男鹿みなど市民病院  
市立秋田総合病院  
市立角館総合病院  
市立横手病院  
秋田赤十字病院  
JA秋田厚生連 能代厚生医療センター  
JA秋田厚生連 秋田厚生医療センター

JA秋田厚生連 由利組合総合病院  
JA秋田厚生連 大曲厚生医療センター  
JA秋田厚生連 平鹿総合病院  
JA秋田厚生連 雄勝中央病院  
明和会 中通総合病院  
地域医療機能推進機構 秋田病院  
市立大森病院  
秋田県立療育機構 秋田県立医療療育センター  
国立病院機構 あきた病院  
秋田大学医学部附属病院  
JA秋田厚生連 北秋田市民病院  
敬徳会 藤原記念病院

### 6. 山形県

山形県立中央病院  
山形県立 新庄病院  
天童市民病院  
山形市立病院 済生館  
北村山公立病院  
鶴岡市立 荘内病院  
公立 高島病院  
米沢市立病院  
済生会 山形済生病院  
篠田好生会 篠田総合病院  
山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院  
公立置賜総合病院  
みゆき会 みゆき会病院  
山形大学医学部附属病院  
医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立病院

### 7. 福島県

福島県立医科大学附属病院  
公立藤田総合病院  
公立岩瀬病院  
公立 小野町地方総合病院  
いわき市医療センター  
福島赤十字病院  
JA福島厚生連 白河厚生総合病院  
JA福島厚生連 坂下厚生総合病院  
大原記念財団 大原総合病院  
湯浅報恩会 寿泉堂総合病院  
竹田健康財団 竹田総合病院  
ときわ会 常磐病院  
太田総合病院附属 太田西ノ内病院  
脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院  
温知会 会津中央病院  
青空会 大町病院  
福島県立 南会津病院  
国立病院機構 福島病院  
星総合病院  
国立病院機構 いわき病院  
福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院  
福島県総合療育センター  
公立 相馬総合病院

### 8. 茨城県

国立病院機構 霞ヶ浦医療センター  
JA茨城県厚生連 総合病院 土浦協同病院  
東京医科大学茨城医療センター  
(株)日立製作所 ひたちなか総合病院  
地域医療振興協会 石岡第一病院  
茨城県立こども病院  
威恵会 三岳荘 小松崎病院  
JA茨城県厚生連 土浦協同病院 なめがた  
地域医療センター

龍ヶ崎済生会病院  
茨城県済生会 常陸大宮済生会病院  
加瀬病院  
同樹会 結城病院  
愛宣会 ひたち医療センター  
(株)日立製作所 日立総合病院  
筑波大学附属病院  
古河赤十字病院  
常仁会 牛久愛和総合病院  
筑波麓仁会 筑波学園病院  
達生堂 城西病院  
茨城県民生活協同組合 友愛記念病院  
北茨城市民病院  
JA茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター  
清真会 丹野病院  
筑波メディカルセンター病院  
筑波記念会 筑波記念病院  
恒貴会 協和中央病院  
茨城県きぬ医師会 きぬ医師会病院  
JA茨城県厚生連 茨城西南医療センター病院

## 9. 栃木県

国立病院機構 栃木医療センター  
新小山市民病院  
佐野メディカルセンター 佐野市民病院  
芳賀赤十字病院  
那須赤十字病院  
足利赤十字病院  
済生会宇都宮病院  
JAかみつが厚生連 上都賀総合病院  
JA佐野厚生連 佐野厚生総合病院  
地域医療機能推進機構 うつのみや病院  
日光市民病院  
博愛会 菅間記念病院  
光風会 光南病院  
南那須地区広域行政事務組合立 那須南病院  
国際医療福祉大学病院  
中山会 宇都宮記念病院  
とちぎメディカルセンターとちのき  
全国重症心身障害児(者)を守る会 あし  
かがの森足利病院  
自治医科大学附属病院  
獨協医科大学病院  
恵生会 黒須病院  
栃木県立リハビリテーションセンター  
西方病院

## 10. 群馬県

国立病院機構 高崎総合医療センター  
群馬大学医学部附属病院  
桐生厚生総合病院  
公立 藤岡総合病院  
公立 碓氷病院  
伊勢崎市民病院  
邑楽館林医療事務組合 館林厚生病院  
前橋赤十字病院  
原町赤十字病院  
富岡地域医療企業団 富岡総合病院  
地域医療機能推進機構 群馬中央病院  
SUBARU健康保険組合 太田記念病院  
利根保健生活協同組合 利根中央病院  
島門会 本島総合病院  
群馬県立小児医療センター  
西吾妻福祉病院  
菊栄会 渋川中央病院  
伊勢崎佐波医師会病院  
群馬中央医療生活協同組合 前橋協立病院  
さわらび医療福祉センター  
はるな生活協同組合 高崎中央病院

下仁田厚生病院

## 11. 埼玉県

国立病院機構 西埼玉中央病院  
国立病院機構 埼玉病院  
蕨市立病院  
春日部市立医療センター  
草加市立病院  
さいたま赤十字病院  
深谷赤十字病院  
埼玉県済生会川口総合病院  
地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセ  
ンター  
東光会 戸田中央総合病院  
愛友会 上尾中央総合病院  
慈正会 丸山記念総合病院  
弘人会 中田病院  
埼玉県済生会 加須病院  
北里大学メディカルセンター  
愛和会愛和病院  
川口市立医療センター  
埼玉県立小児医療センター  
ヘリオス会 ヘリオス会病院  
秩父市立病院  
本庄福島病院 本庄総合病院  
土屋小児病院  
三愛会 三愛会総合病院  
壮幸会 行田総合病院  
さいたま市民医療センター  
自治医科大学附属さいたま医療センター  
明理会 イムス富士見総合病院  
埼玉医科大学国際医療センター  
橋会 飯能中央病院  
埼玉医科大学病院  
さいたま市立病院  
越谷市立病院  
TMGあさか医療センター  
協友会 八潮中央総合病院  
防衛医科大学校病院  
東光会 戸田中央産院  
医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同  
病院  
青葉会 新座病院  
協友会 東川口病院  
埼玉医療生活協同組合 羽生総合病院  
獨協医科大学埼玉医療センター  
埼玉医科大学総合医療センター 小児科  
東松山市立市民病院  
清幸会 行田中央総合病院

## 12. 千葉県

国立病院機構 千葉医療センター  
国立病院機構 下志津病院  
千葉大学医学部附属病院  
千葉県循環器病センター  
千葉市立 青葉病院  
地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医  
療センター  
松戸市立総合医療センター  
総合病院 国保 旭中央病院  
いすみ医療センター  
君津中央病院企業団 国保直営総合病院  
君津中央病院  
成田赤十字病院  
千葉県済生会習志野病院  
誠馨会 千葉メディカルセンター  
鉄蕉会 亀田総合病院  
東京歯科大学市川総合病院  
キッコーマン総合病院

木下会 千葉西総合病院  
圭春会 小張総合病院  
加藤病院  
千葉県こども病院  
東邦大学医療センター佐倉病院  
日本医科大学千葉北総病院  
国保 多古中央病院  
誠馨会 セコメディック病院  
鎗田病院  
東京女子医科大学附属八千代医療センター  
誠高会 おおたかの森病院  
柏市医療公社 柏市立柏病院  
蛍水会 名戸ヶ谷あびこ病院  
木下会 鎌ヶ谷総合病院  
東金九十九里地域医療センター 東千葉メ  
ディカルセンター  
芙蓉会 五井病院  
徳洲会 成田富里徳洲会病院  
千葉白井病院  
聖峰会 岡田病院  
千葉健生病院  
千葉県 千葉リハビリテーションセンター  
明理会 行徳総合病院  
明理会 新松戸中央総合病院  
聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院  
労働者健康安全機構 千葉労災病院  
成春会 北習志野花輪病院  
千葉県勤労者医療協会 船橋二和病院  
協友会 船橋総合病院  
協友会 柏厚生総合病院  
東京勤労者医療会 東葛病院  
千葉市立海浜病院  
順天堂大学医学部附属浦安病院  
船橋市立医療センター  
協友会 千葉愛友会記念病院  
みつや会 新八街総合病院  
帝京大学ちば総合医療センター  
東京慈恵会医科大学附属柏病院

## 13. 東京都

国立国際医療研究センター病院  
国立成育医療研究センター病院  
国立病院機構 東京医療センター 小児科  
東京大学医学部附属病院  
東京医科歯科大学医学部附属病院  
NTT東日本 関東病院  
JR東京総合病院  
東京通信病院  
自衛隊中央病院  
東京都立 駒込病院  
東京都立 墨東病院  
東京都立 荏原病院  
東京都立 広尾病院  
東京都立 大塚病院  
東京都立 北療育医療センター  
東京都立 豊島病院  
青梅市立総合病院  
稲城市立病院  
町田市民病院  
公立昭和病院  
日本赤十字社東京都支部 大森赤十字病院  
日本赤十字社医療センター  
東京かつしか赤十字母子医療センター  
日本赤十字社東京都支部 武蔵野赤十字病院  
東京都済生会中央病院  
地域医療機能推進機構 東京山手メディカ  
ルセンター  
地域医療機能推進機構 東京新宿メディカ  
ルセンター

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院  
国家公務員共済組合連合会 三宿病院  
全国土木建築国民健康保険組合 総合病院  
厚生中央病院  
東京都教職員互助会 三楽病院  
聖路加国際病院  
ライフ・エクステンション研究所附属永寿  
総合病院  
東京都医療保健協会 練馬総合病院  
順江会 江東病院  
仁医会 牧田総合病院  
松和会 池上総合病院  
荻窪病院  
河北医療財団 河北総合病院  
杏林大学医学部付属病院  
日本大学病院  
東京慈恵会医科大学附属病院  
東京女子医科大学病院  
慶応義塾大学病院  
東京医科大学病院  
日本医科大学付属病院  
順天堂大学医学部附属 順天堂医院  
昭和大学病院  
東邦大学医療センター大橋病院  
東邦大学医療センター大森病院  
東京女子医科大学附属足立医療センター  
日本大学医学部附属板橋病院  
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター  
東京慈恵会医科大学附属第三病院  
大坪会 東都文京病院  
東京巨樹の会 東京品川病院  
三井記念病院  
聖母会 聖母病院  
同愛記念病院財団 同愛記念病院  
康和会 久我山病院  
東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総  
合病院  
立正佼成会附属 佼成病院  
東京衛生アドベンチスト病院  
勝楽堂病院  
健貢会 総合東京病院  
日本心身障害児協会 島田療育センター  
東京都同胞援護会 昭島病院  
時正会 佐々総合病院  
まつしま産婦人科小児科病院  
東京都立 多摩南部地域病院  
日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海  
病院  
東海大学医学部付属八王子病院  
地域医療振興協会 東京北医療センター  
榊原記念財団附属 榊原記念病院  
東京都立 小児総合医療センター  
順天堂大学医学部附属練馬病院  
永生会 南多摩病院  
正志会 南町田病院  
青秀会 グレイス病院  
東京都立 多摩北部医療センター  
大和会 武蔵村山病院  
社団博栄会 赤羽中央総合病院  
健康文化会 小豆沢病院  
公立 阿伎留医療センター  
帝京大学医学部附属病院  
誠志会 誠志会病院  
日本医科大学多摩永山病院  
博慈会 博慈会記念総合病院  
聖ヨハネ会 桜町病院  
昭和大学江東豊洲病院  
明芳会 板橋中央総合病院  
明芳会 高島平中央総合病院

国立精神・神経医療研究センター病院  
健生会 立川相互病院  
労働者健康安全機構 東京労災病院  
地域医療振興協会 練馬光が丘病院  
大坪会 東和病院  
14. 神奈川県  
国立病院機構 横浜医療センター  
横須賀市立 うわまち病院  
国立病院機構 相模原病院  
国立病院機構 神奈川病院  
厚木市立病院  
神奈川県立病院機構 神奈川県立 足柄上  
病院  
横浜市立市民病院  
川崎市立 川崎病院  
平塚市立病院  
茅ヶ崎市立病院  
小田原市立病院  
JA神奈川県厚生連 相模原協同病院  
地域医療機能推進機構 相模野病院  
国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院  
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院  
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院  
神奈川県警友会 けいゆう病院  
慈啓会 大口東総合病院  
和光会 総合川崎臨港病院  
愛仁会 太田総合病院  
亮正会 総合高津中央病院  
相和会 淵野辺総合病院  
親善福祉協会 国際親善総合病院  
南浜会 鈴木病院  
産育会堀病院  
労働者健康安全機構 横浜労災病院  
横浜市立大学附属病院  
自衛隊横須賀病院  
康心会 湘南東部総合病院  
昭和大学横浜市北部病院  
済生会 横浜市東部病院  
鴨居病院  
聖マリアンナ医科大学 川崎市立多摩病院  
三成会 新百合ヶ丘総合病院  
葵会 A O I 国際病院  
徳洲会 茅ヶ崎徳洲会病院  
ジャパンメディカルアライアンス 座間総  
合病院  
聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院  
労働者健康安全機構 関東労災病院  
秦野赤十字病院  
JA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院  
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院  
藤沢市民病院  
昭和大学藤が丘病院  
聖マリアンナ医科大学病院  
東海大学医学部付属病院  
北里大学病院  
帝京大学医学部附属溝口病院  
川崎医療生活協同組合 川崎協同病院  
興生会 相模台病院  
済生会 横浜市南部病院  
明芳会 横浜旭中央総合病院  
康心会 康心会汐見台病院  
徳洲会 大和徳洲会病院  
哺育会 桜ヶ丘中央病院  
徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院  
愛友会 金沢文庫病院  
ジャパンメディカルアライアンス 海老名  
総合病院  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

緑成会 横浜総合病院  
15. 新潟県  
国立病院機構 新潟病院  
新潟大学医学部総合病院  
新潟県立がんセンター 新潟病院  
新潟県立 新発田病院  
新潟県立 吉田病院  
新潟県立 十日町病院  
新潟県立中央病院  
長岡赤十字病院  
済生会 三条病院  
JA新潟厚生連 長岡中央総合病院  
JA新潟厚生連 柏崎総合医療センター  
JA新潟厚生連 上越総合病院  
JA新潟厚生連 けいなん総合病院  
JA新潟厚生連 佐渡総合病院  
済生会 新潟病院  
共生会中条中央病院  
新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院  
JA新潟厚生連 小千谷総合病院  
真仁会 五泉中央病院  
新潟市民病院  
恒仁会 新潟南病院  
新潟医療生活協同組合 木戸病院  
佐渡市立両津病院  
新潟県はまぐみ小児療育センター  
新潟県立 坂町病院  
新潟勤労者医療協会 下越病院  
白根保健生活協同組合 新潟白根総合病院  
長岡福祉協会 長岡療育園  
16. 富山県  
富山市立 富山市民病院  
黒部市民病院  
高岡市民病院  
かみいち総合病院  
射水市民病院  
市立砺波総合病院  
富山県済生会 高岡病院  
JA富山厚生連 高岡病院  
地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院  
公立学校共済組合 北陸中央病院  
藤聖会 富山西総合病院  
南砺市民病院  
国立病院機構 富山病院  
金沢医科大学水見市民病院  
富山大学附属病院  
あさひ総合病院  
17. 石川県  
国立病院機構 金沢医療センター  
金沢大学附属病院  
石川県立中央病院  
金沢市立病院  
国民健康保険 小松市民病院  
公立 能登総合病院  
加賀市医療センター  
輪島市立 輪島病院  
金沢赤十字病院  
白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院  
地域医療機能推進機構 金沢病院  
金沢聖霊総合病院  
董仙会 恵寿総合病院  
荒木病院  
公立羽咋病院  
浅ノ川 浅ノ川総合病院  
国立病院機構 医王病院  
国民健康保険 能美市立病院

珠洲市総合病院  
石川勤労者医療協会 城北病院  
金沢医科大学病院  
博友会 金沢西病院  
公立 穴水総合病院

#### 18. 福井県

国立病院機構 敦賀医療センター  
公立 丹南病院  
坂井市立 三国病院  
市立敦賀病院  
杉田玄白記念 公立小浜病院  
福井赤十字病院  
福井県済生会病院  
国立病院機構 あわら病院  
福井県子ども療育センター  
新田塚医療福祉センター福井総合クリニック  
福井心臓血圧センター 福井循環器病院  
福井愛育病院  
中村病院  
福井大学医学部附属病院

#### 19. 山梨県

国立病院機構 甲府病院  
国民健康保険 韮崎市立病院  
北杜市立 甲陽病院  
都留市立病院  
桃花会 一宮温泉病院  
石和共立病院  
山梨赤十字病院  
山梨勤労者医療協会 甲府共立病院  
山梨厚生会 山梨厚生病院 小児科  
上野原市立病院  
山梨県立あけぼの医療福祉センター  
大月市立中央病院  
山梨大学医学部附属病院

#### 20. 長野県

国立病院機構 信州上田医療センター  
信州大学医学部附属病院  
長野県立阿南病院  
長野県立病院機構 長野県立 木曾病院  
諏訪中央病院組合立 諏訪中央病院  
岡谷市民病院  
伊那中央病院  
市立 大町総合病院  
諏訪赤十字病院  
安曇野赤十字病院  
長野赤十字病院  
飯山赤十字病院  
JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター  
JA長野厚生連 北アルプス医療センターあづみ病院  
JA長野厚生連 北信総合病院  
JA長野厚生連 南長野医療センター新町病院  
慈泉会 相澤病院  
長野医療生活協同組合 長野中央病院  
長野県立病院機構 長野県立子ども病院  
長野市民病院  
信越病院  
軽井沢町国民健康保険 軽井沢病院  
登誠会諏訪マタニティークリニック  
上伊那医療生活協同組合 上伊那生協病院  
南信勤労者医療協会 諏訪共立病院  
佐久市立 国保 浅間総合病院  
国立病院機構 まつもと医療センター  
伊南行政組合 昭和伊南総合病院  
丸山会 丸子中央病院

町立辰野病院  
飯田市立病院  
城西医療財団 城西病院  
JA長野厚生連佐久総合病院 小海分院  
信濃医療福祉センター  
JA長野厚生連 富士見高原医療福祉センター  
一富士見高原病院  
JA長野厚生連 南長野医療センター篠ノ井総合病院  
JA長野厚生連 長野松代総合病院  
健和会 健和会病院  
松本市立病院  
中信勤労者医療協会 松本協立病院

#### 21. 岐阜県

国立病院機構 長良医療センター  
地域医療振興協会 市立恵那病院  
岐阜県総合医療センター  
岐阜県立 多治見病院  
岐阜市民病院  
羽島市民病院  
大垣市民病院  
美濃市立美濃病院  
厚生会 多治見市民病院  
土岐市立総合病院  
総合病院 中津川市民病院  
下呂市立 金山病院  
高山赤十字病院  
JA岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター西  
美濃厚生病院  
JA岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院  
JA岐阜厚生連 中濃厚生病院  
JA岐阜厚生連 東濃厚生病院  
公立学校共済組合 東海中央病院  
郡上市市民病院  
岐阜勤労者医療協会 みどり病院  
岐阜大学医学部附属病院  
岐阜県立 下呂温泉病院  
国民健康保険 飛騨市民病院  
誠広会 平野総合病院  
蘇西厚生会 松波総合病院  
友愛会 岩砂病院・岩砂マタニティ  
JA岐阜厚生連 飛騨医療センター久美愛厚生病院

#### 22. 静岡県

国立病院機構 天竜病院  
静岡県立病院機構 静岡県立総合病院  
静岡市立 静岡病院  
富士市立中央病院  
富士宮市立病院  
共立蒲原総合病院  
焼津市立総合病院  
磐田市立総合病院  
市立湖西病院  
静岡赤十字病院  
浜松赤十字病院  
静岡済生会総合病院  
JA静岡厚生連 静岡厚生病院  
JA静岡厚生連 清水厚生病院  
JA静岡厚生連 遠州病院  
浜松医療センター  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院  
聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院  
地域医療振興協会 伊東市民病院  
静岡県立 静岡がんセンター  
沖縄徳洲会 静岡徳洲会病院

駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院  
掛川市・袋井市病院企業団 中東遠総合医療センター  
静岡県立病院機構 静岡県立子ども病院  
浜松医科大学医学部附属病院 小児科  
国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター  
芙蓉協会 聖隷沼津病院

#### 23. 愛知県

国立病院機構 名古屋医療センター  
国立病院機構 豊橋医療センター  
名古屋大学医学部附属病院  
葵会 A O I 名古屋病院  
名古屋市立 東部医療センター  
名古屋市立 西部医療センター  
名古屋市立大学病院  
豊橋市民病院  
岡崎市民病院  
一宮市立市民病院  
公立 陶生病院  
半田市立 半田病院  
春日井市民病院  
小牧市民病院  
豊川市民病院  
津島市民病院  
あま市民病院  
西尾市民病院  
蒲郡市民病院  
常滑市民病院  
名古屋第一赤十字病院  
名古屋第二赤十字病院  
JA愛知厚生連 豊田厚生病院  
JA愛知厚生連 安城更生病院  
JA愛知厚生連 江南厚生病院  
地域医療機能推進機構 中京病院  
名鉄病院  
国家公務員共済組合連合会 名城病院  
日本海員救済会 名古屋救済会病院  
大雄会 総合大雄会病院  
豊田会 刈谷豊田総合病院  
宏潤会 大同病院  
トヨタ記念病院  
聖霊会 聖霊病院  
済生会 愛知県三河青い鳥医療療育センター  
純正会 東洋病院  
清慈会 鈴木病院  
尾張健友会 千秋病院  
碧南市民病院  
豊田地域医療センター  
愛知県青い鳥医療療育センター  
JA愛知厚生連 足助病院  
みよし市民病院  
山武会 岡崎南病院  
あいち小児保健医療総合センター  
純正会 名古屋西病院  
一宮西病院  
西知多医療厚生組合 公立西知多総合病院  
労働者健康安全機構 中部労災病院  
桂名会 大須病院  
南医療生活協同組合 総合病院 南生協病院  
藤田医科大学病院  
藤田医科大学ばんだね病院  
愛知医科大学病院  
宝美会 総合青山病院  
JA愛知厚生連 稲沢厚生病院  
済衆館 済衆館病院  
労働者健康安全機構 旭労災病院  
新和会 八千代病院

明陽会 成田記念病院  
大医会 日進おりど病院

#### 24. 三重県

国立病院機構 三重中央医療センター  
三重県立総合医療センター  
三重大学医学部附属病院  
三重県立 志摩病院  
四日市市立 四日市病院  
紀南病院組合 紀南病院  
伊勢赤十字病院  
JA三重厚生連 松阪中央総合病院  
地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター  
畿内会 岡波総合病院  
JA三重厚生連 鈴鹿中央総合病院  
名張市立病院  
済生会 明和病院  
全心会 伊勢慶友病院  
桑名市総合医療センター  
国立病院機構 三重病院  
みえ医療福祉生活協同組合 津生協病院  
尚徳会 ヨナハ丘の上病院  
済生会 松阪総合病院

#### 25. 滋賀県

市立大津市民病院 小児科  
公立 甲賀病院  
近江八幡市立総合医療センター  
彦根市立病院  
市立長浜病院  
長浜市立 湖北病院  
高島市民病院  
大津赤十字病院  
長浜赤十字病院  
済生会 滋賀県病院  
地域医療機能推進機構 滋賀病院  
豊郷病院  
びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター  
草津  
大津赤十字志賀病院  
昂会 湖東記念病院  
徳洲会 近江草津徳洲会病院  
国立病院機構 東近江総合医療センター  
恭昭会 彦根中央病院  
滋賀医科大学医学部附属病院  
昂会 日野記念病院

#### 26. 京都府

国立病院機構 京都医療センター  
市立福知山市民病院  
国立病院機構 舞鶴医療センター  
京都府立医科大学附属北部医療センター  
京都市立病院機構 京都市立病院  
京都第二赤十字病院  
京都第一赤十字病院  
済生会 京都府病院  
国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院  
総合病院 日本バプテスト病院  
丹後中央病院  
石鎚会 京都田辺中央病院  
今井会 足立病院 足立病院  
亀岡市立病院  
三菱自動車工業(株)京都製作所 三菱京都病院  
国立病院機構 宇多野病院  
宇治武田病院  
京都社会事業財団 京都桂病院  
美杉会 男山病院

京都山城総合医療センター  
聖ヨゼフ医療福祉センター  
医仁会 武田総合病院  
徳洲会 宇治徳洲会病院  
啓信会 京都市きづ川病院  
福富士会 京都ルネス病院  
淀さんせん会 金井病院  
京丹後市立弥栄病院  
京都保健会 京都民医連中央病院  
洛和会 洛和会音羽病院  
京都市桃陽病院  
京都岡本記念病院  
京都府立医科大学小児科 小児疾患研究施設内科部門

#### 27. 大阪府

国立病院機構 大阪医療センター  
国立病院機構 大阪南医療センター  
大阪大学医学部附属病院  
大阪市民病院機構 大阪市立 十三市民病院  
大阪公立大学医学部附属病院  
堺市立病院機構 堺市立総合医療センター  
市立池田病院  
市立豊中病院  
市立吹田市民病院  
市立ひらかた病院  
市立東大阪医療センター  
八尾市立病院  
泉大津市立病院  
市立岸和田市民病院  
市立貝塚病院  
大阪赤十字病院  
大阪府済生会 中津病院  
大阪府済生会 野江病院  
大阪府済生会 吹田病院  
大阪府済生会 茨木病院  
地域医療機能推進機構 大阪病院  
地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院  
パナソニック健康保険組合 松下記念病院  
田附興風会 医学研究所北野病院  
住友病院  
日本海員救済会 大阪救済会病院  
日本生命済生会 日本生命病院  
聖バルナバ病院  
石井記念愛染園附属愛染橋病院  
きつこう会 多根総合病院  
彰療会 大正病院  
同仁会 耳原総合病院  
宝生会 PL病院  
生長会 府中病院  
大阪医科薬科大学附属病院  
関西医科大学香里病院  
大阪暁明館 大阪暁明館病院  
淀川キリスト教病院  
大阪府済生会 千里病院  
真美会 大阪旭こども病院  
寺西報恩会 長吉総合病院  
尽生会 聖和病院  
若弘会 若草第一病院  
大阪市立総合医療センター小児救急科  
枚方公済病院  
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑  
関西医科大学附属病院  
関西医科大学総合医療センター  
弘道会 守口生野記念病院  
弘道会 萱島生野病院  
徳洲会 松原徳洲会病院  
市立柏原病院  
協和会 加納総合病院

仙養会 北摂総合病院  
大阪労災病院  
国立循環器病研究センター  
徳洲会和泉市立総合医療センター  
地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター  
愛仁会 千船病院  
清恵会 清恵会病院  
徳洲会 岸和田徳洲会病院  
近畿大学医学部附属病院  
信愛会 交野病院  
大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター  
箕面市立病院  
祐生会 みどりヶ丘病院  
河内友誼会 河内総合病院  
徳洲会 八尾徳洲会総合病院  
大阪府立病院機構 大阪母子医療センター  
生長会 阪南市民病院  
同友会 共和病院  
生長会 ベルランド総合病院  
孟仁会 摂南総合病院

#### 28. 兵庫県

愛仁会 明石医療センター  
労働者健康安全機構 関西労災病院  
兵庫県立 西宮病院  
神戸市立医療センター中央市民病院  
明石市立市民病院  
公立豊岡病院組合立 豊岡病院  
西宮市立中央病院  
川西市立総合医療センター  
市立伊丹病院  
公立 八鹿病院  
赤穂市民病院  
西脇市立 西脇病院  
市立芦屋病院  
三田市民病院  
姫路赤十字病院  
済生会 兵庫県病院  
地域医療機能推進機構 神戸中央病院  
公立学校共済組合 近畿中央病院  
甲南医療センター  
直太会 母と子の山田病院  
甲南会 六甲アイランド甲南病院  
神戸市民病院機構 神戸市立西神戸医療センター  
公立 宍粟総合病院  
樹徳会 上ヶ原病院  
協和会 第二協立病院  
栄宏会 栄宏会小野病院  
加古川中央市民病院  
兵庫県立丹波医療センター  
兵庫県立はりま姫路総合医療センター  
神戸市民病院機構 神戸市立医療センター  
西市民病院  
公立 香住病院  
西宮回生病院  
自衛隊阪神病院  
兵庫県立こども病院  
加東市民病院  
兵庫医科大学病院  
聖フランシスコ会 姫路聖マリア病院  
公立 神崎総合病院  
神戸健康共和会 東神戸病院  
国立病院機構 神戸医療センター  
沖繩徳洲会 神戸徳洲会病院  
まほし会 真星病院  
純心会 パルモア病院  
汐咲会 井野病院

宝塚市立病院  
伯鳳会 赤穂中央病院

29. 奈良県  
市立奈良病院  
奈良県立医科大学附属病院  
大和高田市立病院  
済生会奈良病院  
地域医療機能推進機構 大和郡山病院  
天理よろづ相談所病院  
健生会 土庫病院  
国保中央病院  
近畿大学医学部奈良病院  
和幸会 阪奈中央病院  
高清会 高井病院  
南奈良総合医療センター  
藤井会 香芝生喜病院  
生駒市立病院  
国立病院機構 奈良医療センター  
奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター  
奈良県立病院機構 奈良県西和医療センター  
済生会 中和病院  
清心会 桜井病院  
友誼会 奈良友誼会病院

30. 和歌山県  
和歌山県立医科大学附属病院  
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院  
海南医療センター  
公立那賀病院  
橋本市民病院  
有田市立病院  
ひだか病院  
紀南病院  
日本赤十字社和歌山医療センター  
白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院  
曙会 和歌浦中央病院  
黎明会 北出病院  
くしもと町立病院  
労働福祉事業団 和歌山ろうさい病院  
和歌山生協病院  
青松会 河西田村病院

31. 鳥取県  
鳥取大学医学部附属病院  
鳥取県立中央病院  
鳥取県立厚生病院  
鳥取市立病院  
岩美町国民健康保険 岩美病院  
国民健康保険 智頭病院  
鳥取赤十字病院  
鳥取県済生会 境港総合病院  
日野病院組合 日野病院  
同愛会 博愛病院  
南部町国民健康保険 西伯病院  
鳥取県立総合療育センター  
労働者健康安全機構 山陰労災病院  
国立病院機構 鳥取医療センター

32. 島根県  
大田市立病院  
国立病院機構 浜田医療センター  
島根県立中央病院  
松江市立病院  
出雲市立総合医療センター  
雲南市立病院  
隠岐広域連合立 隠岐病院  
松江赤十字病院  
益田赤十字病院

東部島根医療福祉センター  
安来市立病院  
国立病院機構 松江医療センター  
昌林会 安来第一病院  
島根整肢学園 西部島根医療福祉センター  
創健会 松江記念病院

33. 岡山県  
国立病院機構 岡山医療センター  
岡山市立市民病院  
倉敷市立市民病院  
笠岡市立市民病院  
岡山赤十字病院  
済生会 岡山済生会総合病院  
大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院  
津山慈恵会 津山中央病院  
水和会 水島中央病院  
井口会 総合病院 落合病院  
総合病院 水島協同病院  
明和会 ペリネイト母と子の病院  
高梁市国民健康保険 成羽病院  
瀬戸内市立 瀬戸内市民病院  
旭川荘 旭川荘療育・医療センター  
川崎医科大学附属病院  
国立病院機構 南岡山医療センター  
創和会 重井医学研究所附属病院  
倉敷成人病センター  
倉敷リバーサイド病院  
緑十字会 笠岡中央病院  
清和会 笠岡第一病院  
労働者健康安全機構 岡山労災病院  
昭和会 倉敷北病院

34. 広島県  
国立病院機構 呉医療センター  
国立病院機構 福山医療センター 小児循環器科  
国立病院機構 東広島医療センター  
広島大学病院  
JR広島病院  
広島はくしま病院  
県立広島病院  
広島県立 安芸津病院  
広島市立病院機構 広島市立広島市民病院  
世羅中央病院企業団 公立世羅中央病院  
市立三次中央病院  
広島赤十字・原爆病院  
総合病院 三原赤十字病院  
総合病院 庄原赤十字病院  
JA広島厚生連 尾道総合病院  
JA広島厚生連 廣島総合病院  
府中市病院機構 府中市民病院  
国家公務員共済組合連合会 広島記念病院  
中国電力株式会社 中電病院  
沼南会 沼隈病院  
国立病院機構 広島西医療センター  
日本鋼管福山病院  
広島市立病院機構 広島市立舟入市民病院  
福山市民病院  
広島市立病院機構 広島市立北部医療センター安佐市民病院  
労働者健康安全機構 中国労災病院  
広島県立障害者リハビリテーションセンター医療センター  
あかね会 土谷総合病院  
うすい会 高陽ニュータウン病院  
里仁会 興生総合病院

35. 山口県  
国立病院機構 関門医療センター  
山口大学医学部附属病院  
山口県立総合医療センター  
山陽小野田市立 山陽小野田市民病院  
総合病院 山口赤十字病院  
済生会 下関総合病院  
JA山口厚生連 周東総合病院  
JA山口厚生連 長門総合病院  
地域医療機能推進機構 徳山中央病院  
神徳会 三田尻病院  
労働者健康安全機構 山口労災病院  
鼓ヶ浦こども医療福祉センター  
至誠会 梅田病院  
済生会 豊浦病院  
萩市民病院  
国立病院機構 柳井医療センター

36. 徳島県  
国立病院機構 徳島病院  
徳島大学病院  
徳島県立中央病院  
徳島市民病院  
つるぎ町立 半田病院  
徳島赤十字病院  
JA徳島厚生連 吉野川医療センター  
徳島県鳴門病院  
JA徳島厚生連 阿南医療センター  
国立病院機構 東徳島医療センター  
医正会 原田病院  
JA徳島厚生連 阿波病院  
徳島赤十字ひのみね総合療育センター

37. 香川県  
坂出市立病院  
三豊総合病院  
地域医療機能推進機構 りつりん病院  
小豆島中央病院  
高松市立みんなの病院  
国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター  
済生会 香川県済生会病院  
カトリック聖ドミニコ宣教修道女会 坂出聖マルチン病院  
香川大学医学部附属病院  
香川医療生活協同組合 高松平和病院  
大樹会 総合病院 回生病院  
豊南会 香川井下病院

38. 愛媛県  
国立病院機構 愛媛医療センター  
愛媛県立中央病院  
愛媛県立 今治病院  
愛媛県立 南宇和病院  
市立八幡浜総合病院  
市立宇和島病院  
松山赤十字病院  
同心会 西条中央病院  
公立学校共済組合 四国中央病院  
尚温会 伊予病院  
順風会 天山病院  
生きる会 瀬戸内海病院  
更生会 村上記念病院  
愛媛大学医学部附属病院  
永頼会 松山市民病院  
愛媛県立 新居浜病院  
済生会 今治病院

39. 高知県

高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター  
いの町立 国民健康保険 仁淀病院  
土佐市立 土佐市民病院  
高知赤十字病院  
JA高知厚生連 JA高知病院  
須崎くろしお病院  
聖真会 渭南病院  
公世会 野市中央病院  
高知県立 幡多けんみん病院  
仁生会 三愛病院  
高知大学医学部附属病院  
高知県立 あき総合病院

40. 福岡県

国立病院機構 小倉医療センター  
国立病院機構 九州医療センター  
国立病院機構 福岡病院  
国立病院機構 福岡東医療センター  
久留米大学医療センター小児科  
九州大学病院  
北九州市立医療センター  
北九州市立八幡病院  
大牟田市立病院  
田川市立病院  
筑後市立病院  
公立八女総合病院  
福岡赤十字病院  
嘉麻赤十字病院  
福岡県済生会八幡総合病院  
地域医療機能推進機構 九州病院  
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院  
大成会 福岡記念病院  
久留米大学病院  
製鉄記念八幡病院  
飯塚病院  
宗像医師会病院  
水北会 水北第一病院  
水光会 宗像水光会総合病院  
八女発心会 姫野病院  
地域医療振興協会 飯塚市立病院  
遠賀中間医師会 おんが病院  
池友会 福岡新水巻病院  
共愛会 戸畑共立病院  
福岡大学西新病院  
労働者健康安全機構 九州労災病院  
自衛隊福岡病院  
くらて病院  
正信会 水戸病院  
ゆうかり学園 ゆうかり医療療育センター  
産業医科大学病院  
福岡大学病院  
福岡医療団 千鳥橋病院  
北九州病院 北九州総合病院  
福岡市立子ども病院 感染症センター感染症科  
徳洲会 福岡徳洲会病院  
高邦会 高木病院  
健和会 大手町病院  
医和基会 戸畑総合病院  
朝倉医師会病院  
ふらて会 西野病院  
誠和会 牟田病院  
福岡大学筑紫病院  
相生会 宮田病院  
社会保険田川病院

41. 佐賀県

国立病院機構 嬉野医療センター  
佐賀県医療センター好生館  
伊万里有田共立病院  
唐津赤十字病院  
佐賀整肢学園 こども発達医療センター  
古賀小児科内科病院  
国立病院機構 東佐賀病院  
佐賀大学医学部附属病院  
至慈会 高島病院

42. 長崎県

国立病院機構 長崎医療センター  
長崎大学病院  
長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター  
佐世保市総合医療センター  
地域医療振興協会 市立大村市民病院  
長崎県病院企業団長崎県老岐病院  
地域医療機能推進機構 諫早総合病院  
国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院  
長崎記念病院  
白十字会 佐世保中央病院  
国民健康保険 平戸市民病院  
医理会 柿添病院  
長崎県病院企業団 長崎県対馬病院  
済生会長崎病院  
幸生会 諫早療育センター

43. 熊本県

国立病院機構 熊本医療センター  
熊本大学医学部附属病院  
熊本市立 熊本市市民病院  
国民健康保険 和水町立病院  
荒尾市民病院  
阿蘇医療センター  
小国公立病院  
国保 水俣市立総合医療センター  
球磨郡公立 多良木病院  
上天草市立 上天草総合病院  
熊本赤十字病院  
国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院  
労働者健康安全機構 熊本労災病院  
芳和会 くわみず病院  
天草都市医師会立 天草地域医療センター  
谷田会 谷田病院  
聖和会 有明成仁病院  
聖粒会 慈恵病院  
桜十字 桜十字病院  
天草市立 牛深市民病院  
熊本市医師会 熊本地域医療センター  
山鹿市民医療センター  
坂梨会 阿蘇温泉病院

44. 大分県

国立病院機構 別府医療センター  
国立病院機構 西別府病院  
中津市立 中津市民病院  
大分県立病院  
国東市民病院  
杵築市立 山香病院  
JA大分県厚生連 鶴見病院  
藤本育成会 大分子ども病院  
大分県済生会 日田病院  
別府発達医療センター  
豊後大野市民病院  
大分市医師会立 アルメイダ病院  
大分大学医学部附属病院

大分県医療生活協同組合 大分健生病院  
竹田市医師会 竹田医師会病院

45. 宮崎県

国立病院機構 都城医療センター  
宮崎県立 宮崎病院 小児科  
宮崎県立 延岡病院  
宮崎県立 日南病院  
高千穂町国民健康保険病院  
宮崎医療生活協同組合 宮崎生協病院  
国立病院機構 宮崎病院  
国立病院機構 宮崎東病院  
宮崎大学医学部附属病院  
宮崎県済生会 日向病院

46. 鹿児島県

国立病院機構 鹿児島医療センター  
鹿児島大学病院  
県民健康プラザ鹿屋医療センター  
鹿児島市立病院  
出水市立 出水総合医療センター  
人天会 鹿児島子ども病院  
徳洲会 沖永良部徳洲会病院  
義順顕彰会 種子島医療センター  
徳洲会 屋久島徳洲会病院  
霧島市立医師会医療センター  
童仁会 池田病院  
奄美医療生活協同組合 奄美中央病院  
慈愛会 今村総合病院  
鹿児島県立 大島病院  
国立病院機構 南九州病院  
鹿児島医療生活協同組合 総合病院鹿児島生協病院  
向陽会やまびこ医療福祉センター  
昭和会 いまきいれ総合病院  
徳洲会 徳之島徳洲会病院

47. 沖縄県

ユカリア沖縄 かなな病院  
海秀会 うえむら病院  
沖縄県立 北部病院  
沖縄県立 中部病院  
沖縄赤十字病院  
琉球大学医学部附属病院  
沖縄県立 南部医療センター・子ども医療センター  
沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院  
敬愛会 中頭病院  
那覇市立病院  
沖縄南部療育医療センター  
友愛会 友愛医療センター  
沖縄徳洲会 南部徳洲会病院  
かりゆし会 ハートライフ病院  
心和会 潮平病院  
沖縄県社会福祉事業団 沖縄療育園  
信和会 沖縄第一病院  
八重瀬会 同仁病院

